

史跡・名勝 嵐山

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一二―三

史跡・名勝 嵐山

2012年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

史跡・名勝 嵐山

2012年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物新築工事に伴う史跡・名勝嵐山の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

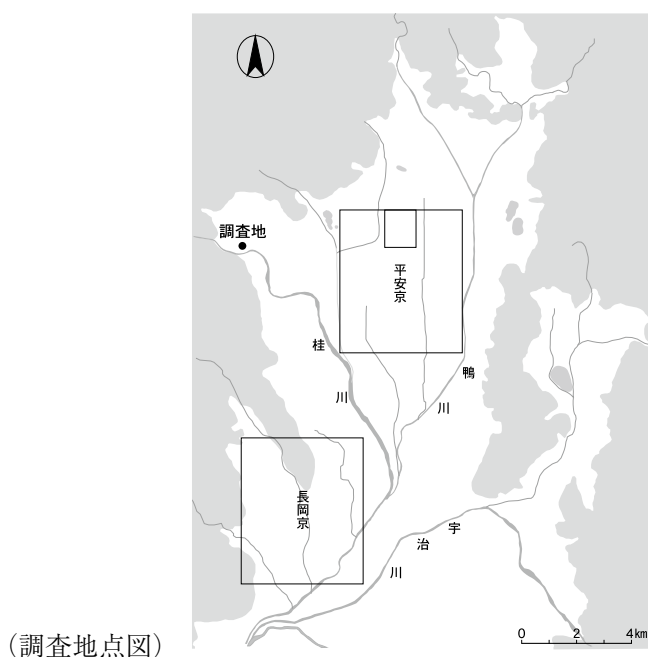
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成24年8月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 史跡・名勝嵐山 |
| 2 調査所在地 | 京都市右京区天龍寺芒ノ馬場町17、25-2、32-2 |
| 3 委 託 者 | オリックス不動産株式会社 代表取締役 山谷佳之 |
| 4 調査期間 | 2011年9月5日～2012年1月20日、2012年5月30日～6月13日 |
| 5 調査面積 | 845㎡ |
| 6 調査担当者 | 小松武彦 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「大覚寺」・「嵐山」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 遺物の種類別に通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 小松武彦 |
| 14 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。 |



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
2. 調査地の環境	3
(1) 歴史的環境	3
(2) 周辺の調査	3
3. 遺 構	7
(1) 層序	7
(2) 遺構	7
4. 遺 物	20
(1) 遺物の概要	20
(2) 土器類	20
(3) 瓦埴類	27
(4) 石製品	39
5. まとめ	40

図 版 目 次

図版1	遺構	1	1区全景（西から）
		2	2区全景（北東から）
図版2	遺構	1	3区全景（東から）
		2	4区全景（北西から）
図版3	遺構	1	5区全景（南西から）
		2	6区全景（東から）
		3	7区全景（南西から）
図版4	遺構	1	1区土坑98（北から）
		2	1区土坑77（南東から）
		3	2区土坑160遺物出土状況（西から）
		4	2区堀119・溝92（東から）
図版5	遺構	1	1区堀86（西から）
		2	1区堀90（東から）

- 3 1区堀90・117（南から）
 4 2区堀90・堀1（北から）
 図版6 遺構 1 1区柱穴48・129（北西から）
 2 1区井戸21（南東から）
 3 1区石列80・集石85（北から）
 図版7 遺構 1 2区池162下層（北から）
 2 2区池162（北から）
 図版8 遺物 平安時代の土器
 図版9 遺物 堀90出土土器
 図版10 遺物 井戸21出土土器
 図版11 遺物 堀404・土坑298出土土器
 図版12 遺物 軒丸瓦1
 図版13 遺物 軒丸瓦2
 図版14 遺物 軒平瓦1
 図版15 遺物 軒平瓦2
 図版16 遺物 丸瓦・塼・鬼瓦・硯

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査前全景（東から）	2
図3	調査風景（東から）	2
図4	調査区配置図（1：500）	2
図5	周辺調査位置図（1：6,000）	4
図6	1区北壁断面図（1：100）	8
図7	遺構平面図（1：200）	9
図8	主要遺構図（1：300）	10
図9	土坑77・98実測図（1：40）	11
図10	土坑160・243、溝350・92実測図（1：50）	12
図11	土坑300実測図（1：50）	13
図12	堀119・117・90・86・404実測図（1：50）	13
図13	布掘礎石1、堀2・3実測図（1：50）	14

図14	柱穴48・129実測図（1：50）	15
図15	塀1実測図（1：50）	16
図16	井戸21実測図（1：50）	17
図17	石列80・集石85実測図（1：50）	17
図18	池162実測図（1：50）	18
図19	石敷315実測図（1：50）	19
図20	堀119出土土器実測図（1：4）	20
図21	溝350出土土器実測図（1：4）	21
図22	溝92、土坑98、土取穴131、土坑290・167・160・243・377出土土器実測図（1：4）	22
図23	土坑275・118、堀119・117出土土器実測図（1：4）	23
図24	堀90出土土器実測図（1：4）	24
図25	堀86・土取穴131出土土器実測図（1：4）	25
図26	井戸21出土土器実測図（1：4）	26
図27	堀404出土土器実測図（1：4）	26
図28	土坑298出土土器実測図（1：4）	27
図29	軒丸瓦拓影・実測図1（1：4）	28
図30	軒丸瓦拓影・実測図2（1：4）	30
図31	土坑98出土軒平瓦拓影・実測図1（1：4）	32
図32	土坑98出土軒平瓦拓影・実測図2（1：4）	33
図33	土坑77出土軒平瓦拓影・実測図（1：4）	33
図34	軒平瓦拓影・実測図（1：4）	34
図35	軒平瓦拓影・実測図（1：4）	36
図36	土坑98出土丸瓦・塼拓影・実測図（1：4）	37
図37	鬼瓦実測図（1：4）	38
図38	石製品実測図（1：4）	39
図39	「山城国葛野郡班田図」	40
図40	「檀林寺推定図」	40
図41	「山城国嵯峨龜山殿近辺屋敷地指図」	41
図42	「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」	41

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	遺構概要表	7
表3	遺物概要表	20

付 表 目 次

付表1	土器一覧表	43
付表2	軒丸瓦一覧表	48
付表3	軒平瓦一覧表	49
付表4	丸瓦・埴・鬼瓦一覧表	50
付表5	石製品一覧表	50

史跡・名勝 嵐山

1. 調査経過

調査地は天龍寺の北東で、府道宇多野・嵐山・山田線沿いに位置し、史跡・名勝嵐山に該当し、檀林寺跡に近接する。敷地は道路面より約1m高く、西へ向かって徐々に高くなる。調査地東端から西へ48m地点で、さらに西へ一段高くなり、ひな壇状を呈する。

当地での（仮称）オリックス京都嵐山荘新築工事に伴い、京都市文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「市文化財保護課」という。）が試掘調査を実施し、一段高い西側から中世の礎石や土坑が検出された。東側では旧建物の基礎や江戸時代以降の攪乱などで削平を受けていたが、中世の溝・土坑などが残存していることを確認した。この試掘成果をうけて、敷地の西側は中世の遺構が良好に遺存しているため現状保存されることになり、一段下った東側の敷地については発掘調査を実施することになった。

なお、敷地内で残土が処理できないため、調査区を2分割して、北側（1区）と南側（2区）に



図1 調査位置図（1：2,500）



図2 調査前全景（東から）



図3 調査風景（東から）

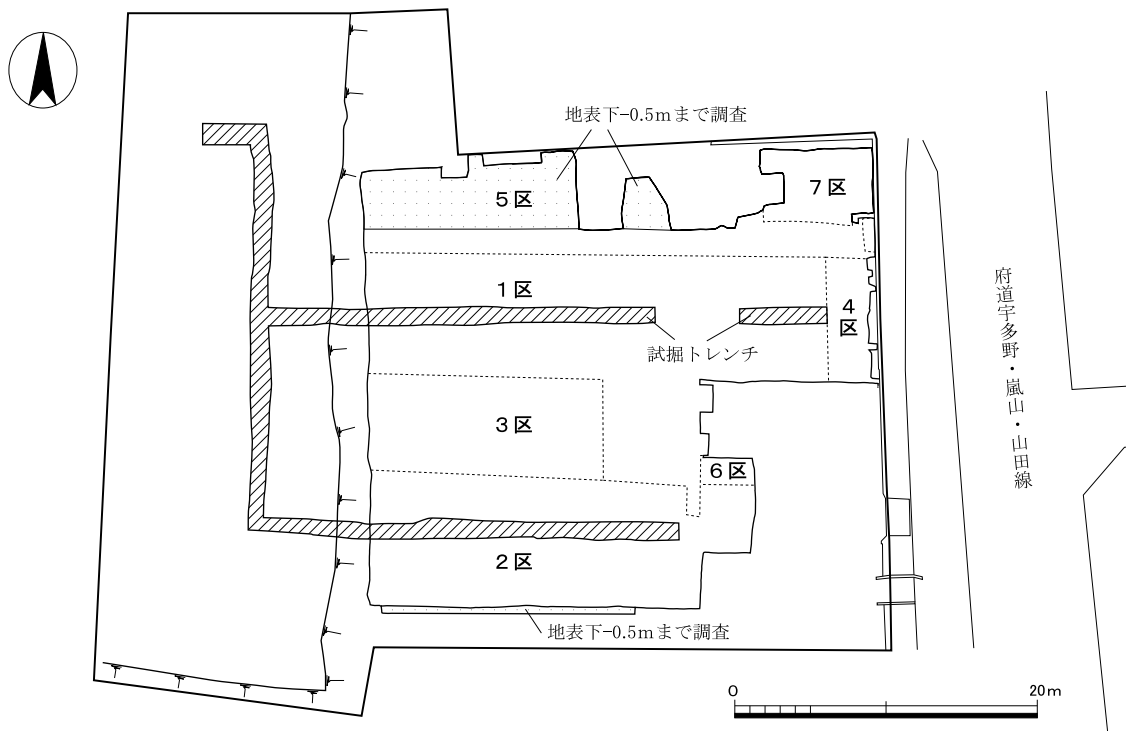


図4 調査区配置図（1：500）

分けて反転調査を実施したが、市文化財保護課の指導により追加調査（3・4・5・6区）を行うこととなり、さらにその後、設計変更が生じたため敷地北東隅部に7区を設定して調査を行った。このうち、5区と2区の南端部は、開発深度が地表下-50cmまでだったため、それ以下の調査は遺跡保存を考慮して行っていない。

検出した遺構は、江戸時代前期から中期の路面・池・石列・集石・井戸・ピット・土坑、室町時代の堀・土坑・礎石列・掘立柱遺構・ピット・土坑・土取穴、平安時代の溝・土坑などである。各遺構の記録作業を順次行い、必要に応じて市文化財保護課および京都府教育庁指導部文化財保護課の指導を受けた。なお、室町時代と平安時代の遺構は砂と土嚢で養生を行い、埋め戻している。

2. 調査地の環境

(1) 歴史的環境

調査地は、亀岡盆地から保津峡を抜けて京都盆地に流れ込む桂川の左岸に位置する。当調査地を含む嵯峨野・嵐山一帯は、古くは古墳時代に太秦付近に拠点をもつ秦氏が「葛野大堰」を築造し、開発を進めたとされている。

平安時代には、平安京近郊の景勝地として知られ、桓武天皇がたびたび遊獵している。後の嵯峨天皇も嵯峨院（嵯峨別館）を造営し、有智子内親王の嵯峨西庄、源融の栖霞観など皇族や貴族たちの別業や山荘が多く営まれた。さらに嵯峨院周辺には、観空寺・檀林寺・棲霞寺など寺院が建立されていく。

鎌倉時代には、後嵯峨天皇によって亀山殿（嵯峨御所）が造営され、引き継いだ亀山天皇も周辺の整備を行う。これらの様相を示すのが、天龍寺所蔵「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図」である。この指図は室町時代前期に成立したと考えられているが、天龍寺が建立される以前の状況を描いており、鎌倉時代の当地域の様相を窺うことができる。指図には浄金剛院・西禅寺・寿量院殿跡・薬草院跡・芹河殿跡・河端殿御所など寺院や邸宅が示されている。また、惣門前路・野宮大路・朱雀大路・作路などの道路が造られ区画整備されたことがわかる。

室町時代には、後醍醐天皇が河端殿の地に臨川寺を造営し、亀山殿の跡地には足利尊氏が後醍醐天皇の菩提を弔うために夢窓国師を開山として天龍寺を建立する。その後も義満が宝幢寺などを建立し、嵯峨周辺には禅宗寺院が建立されていく。貞和三年（1347）に成立した天龍寺所蔵「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」をみると、惣門前路が分断され亀山殿北側の敷地まで天龍寺境内として占有されているが、区画は「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図」を踏襲していることがわかる。

(2) 周辺の調査（図5、表1）

本調査地周辺における過去の調査成果を概略する。遺構は、平安時代から江戸時代まで各時代を通じて検出されており、その中で最も多いのは室町時代の遺構である。なお、これまで調査地周辺で実施された発掘・試掘・立会調査を、調査地点図と一覧表で示した。

既調査は本調査区より南側に集中し、天龍寺と臨川寺の周辺を中心に実施されている。平安時代の遺構は、調査9で園池遺構の洲浜、景石抜取り穴、焼土土坑などが検出されている。調査19でも幅6m以上の大規模な溝が検出され、埋土から奈良時代から平安時代前期の遺物瓦が出土している。調査13・15で平安時代の瓦を多量に含む溝が検出されている。鎌倉時代の遺構は、調査20で掘込み地業と屈折する南北溝が検出されている。調査14でも地業と東西方向の溝が検出されている。調査19で景石や石列を含む園池遺構、総柱建物、南北溝が検出されている。これらの遺構はいずれも亀山殿関連遺構と考えられる。室町時代の遺構は、調査14・20～22で溝・堀など多数検出されており、これらは区画溝と応仁の乱頃の防御用の堀と考えられる。調査17で道路に伴う石組



图5 周边调查位置图 (1 : 6,000)

表1 周辺調査一覧表

No.	遺跡名	所在地(右京区)	方法	調査期間	概要	文献
1	臨川寺跡	嵯峨天龍寺造路町	発掘	1969. 11	庭園跡を検出。鎌倉時代～江戸時代の遺物。	1
2	臨川寺跡	嵯峨天龍寺造路町	発掘	1974. 12	室町時代の溝・柱穴。室町時代の軒瓦・瓦。	2
3	臨川寺跡	嵯峨天龍寺造路町	発掘	1975. 12	平安時代後期のピット、室町時代の石組溝。平安時代後期の土師器、室町時代の天目椀・青磁・須恵器。	3
4	後嵯峨天皇陵 ・亀山天皇陵	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町	試掘	1976. 03. 23 ～03. 28	石垣状遺構・集石、土師器・陶器・瓦。	4
5	臨川寺跡	嵯峨天龍寺造路町	発掘	1976. 09	焼け落ちた状態の建物を検出。室町時代の天目椀・染付・青磁・白磁・陶器・軒瓦・瓦。	3
6	臨川寺跡	嵯峨天龍寺造路町3-11	発掘	1977. 02. 01 ～04. 08	室町時代・江戸時代の土坑・溝、土師器・陶器・軒瓦・瓦。	5
7	檀林寺跡	嵯峨天龍寺立石町1-36	発掘	1977. 08. 01 ～08. 12	平安時代～室町時代の土坑、軒瓦・瓦。	6
8	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 30-20、22	試掘	1986. 04. 02	室町時代の包含層、土師器・瓦。	7
9	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 33	発掘	1989. 02. 01 ～05. 13	平安時代の庭園状遺構(園池・洲浜・景石の抜き穴)・焼土坑・ピット、室町時代の溝・土坑、江戸時代のピット。	8
10	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 40-8	試掘	1989. 02. 10	室町時代の土坑、土師器・瓦・礎石。	9
11	史跡特別名勝 天龍寺庭園・ 史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺竜門町・角 倉町・立石町・芒ノ馬 場町	広域 立会	1990. 03 ～1992. 02. 26	飛鳥時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代の土坑・溝・包含層、土師器・軒瓦・瓦。	10
12	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺造路町	試掘	1992. 03. 11	室町時代の溝・包含層、軒瓦・瓦。	11
13	史跡名勝嵐山	西京区嵐山山下町・ 上海道町・谷ヶ辻子町	広域 立会	1992. 03. 23 ～1994. 03. 04	平安時代前期の溝・土坑・路面・包含層、土師器・軒平瓦・瓦。	12
14	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-25・27・41・50	発掘	1992. 09. 16 ～1993. 02. 16	平安時代の柱穴、鎌倉時代の濠、室町時代の濠・地業・竈状遺構・柱穴・土坑、江戸時代の溝・柱穴・土坑。	13
15	史跡名勝嵐山	嵯峨小倉山小倉町・田淵 山町・天竜寺芒ノ馬場町 ・野々宮町・立石町	広域 立会	1995. 06. 20 ～1996. 01. 17	平安時代前期の土坑・溝、平安時代後期の溝、鎌倉時代～南北朝時代の土坑・路面、室町時代～戦国時代の土坑・落込、江戸時代の土坑。	14
16	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-39	試掘	2000. 05. 10	室町時代の柵列・土坑・整地層、土師器・軒丸瓦。	15
17	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-33、42	発掘	2002. 08. 05 ～08. 12	室町時代の石組溝、土師器・陶器・瓦類・石臼。	16
18	史跡特別名勝 天龍寺庭園	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 68	試掘	2004. 02. 23 ～03. 31	室町時代の土坑・溝。	17
19	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 11	発掘	2004. 06. 07 ～09. 25	鎌倉時代以前の庭園跡・掘立柱建物・溝・低地・土坑、室町時代の土坑・焼瓦溜・塀・堀、江戸時代の礎石建物・独立基礎建物・塀・土坑。	18
20	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 7	発掘	2004. 08. 12 ～11. 12	鎌倉時代後期の掘込み地業・土坑・溝・焼土層、室町時代前期の土坑・柱穴群・大型柱穴・溝、室町時代後期～江戸時代の土坑・柱穴・溝、幕末～近代の土坑・溝・竈・礎石。	19
21	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 10-1、14	発掘	2004. 10. 27 ～11. 30	室町時代の土坑・溝・石垣、土師器・瓦器・焼締陶器・瓦。	20
22	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町	発掘	2006. 06. 05 ～09. 15	鎌倉時代の柱列、室町時代の石組堀・土坑、江戸時代の土坑・石室・石列など。	21
23	史跡名勝嵐山	西京区嵐山西一川町5-4、 6-1、6-3、6-4、7-1、20、30	発掘	2008. 09. 24 ～12. 26	鎌倉時代～室町時代の畦畔・田・土坑・溝、室町時代末期の川・土坑、江戸時代土坑。	22
24	臨川寺跡	嵯峨天龍寺造路町	試掘	2009. 08. 17 ～09. 03	平安時代前期の包含層・河川、中世の整地層、江戸時代の礎石・集石状遺構。	未
25	史跡名勝嵐山	嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 17、25-2、32-2	発掘	2011. 09. 05 ～2012. 06. 11	平安時代の溝・土坑、室町時代の堀・柱穴、桃山時代の井戸、江戸時代の池、土師器・緑釉陶器・軒平瓦。	本 報告

暗渠が検出されている。調査6で臨川寺を取り囲む堀の一部と考えられる遺構も検出されている。調査20で南北方向の柱穴列が検出されており、天龍寺の霊庇廟の鳥居遺構と考えられている。江戸時代の遺構は、調査5で臨川寺関連の総柱建物が検出されている。

文献（表1 周辺調査一覧表）

- 1 牛川善幸「臨川寺庭園の調査」『奈良国立文化財研究所年報1970』奈良国立文化財研究所 1970年
- 2 江谷 寛『臨川寺庭園遺跡発掘調査概要』臨川寺庭園遺跡発掘調査団 1975年
- 3 江谷 寛「臨川寺旧境内」『佛教芸術 115号』毎日新聞社 1977年
- 4 笠野 毅「後嵯峨天皇陵・亀山天皇陵配水管設置箇所的事前調査」『書陵部紀要』第二十六号 宮内庁書陵部 1980年
- 5 吉川義彦他『臨川寺旧境内発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第4冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 1978年
- 6 鈴木久男「檀林寺跡」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 7 「調査一覧表 太秦地区」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
- 8 木下保明「史跡名勝嵐山」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 9 「調査一覧表 太秦地区」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 10 小檜山一良「史跡特別名勝天龍寺庭園・史跡名勝嵐山2」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 11 「試掘調査一覧表 太秦地区」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成4年度』京都市文化観光局 1993年
- 12 小檜山一良「嵯峨・嵐山地域の遺構分布」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 13 久世康博「史跡名勝嵐山」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 14 小檜山一良「史跡名勝嵐山」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 15 堀 大輔「史跡名勝嵐山」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成12年度』京都市文化市民局 2001年
- 16 菅田 薫・吉本健吾『史跡名勝嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-10（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 17 丸川義広「史跡・特別名勝 天龍寺庭園」『平成16年度 財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 18 内田好昭『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-7（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 19 布川豊治『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-11（財）京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 20 平尾政幸「史跡・名勝嵐山」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成16年度』京都市文化市民局 2005年
- 21 小檜山一良『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-9（財）京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 22 木下保明・櫻井みどり『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-14（財）京都市埋蔵文化財研究所 2006年

3. 遺 構

(1) 層序 (図6)

調査地の基本層序は、地表下から5cmまで表土層、5～10cmまで10YR4/4褐色砂泥(礫混)、10cm以下は10YR6/6明黄褐色泥砂で本層上面が遺構面となる。旧建造物で攪乱を受け削平されている部分もあるが、調査地全体として遺構面が非常に浅い。

(2) 遺構 (図7～19、図版1～7)

遺構の大半は、江戸時代の遺構が占めている。次いで室町時代で、堀など応仁の乱前後の遺構が多い。平安時代は瓦の廃棄土坑が多く、建物などの遺構は検出されなかった。鎌倉時代と桃山時代の遺構は数基しか検出されていない。

平安時代の遺構

平安時代の遺構は前期と中期の土坑、溝などである。

土坑98(図9、図版4) 1区中央で検出した土坑で、南北3.3m、東西1.5～1.7m、深さ0.5mで不定形である。埋土から「大井寺」銘の軒平瓦をはじめ多量の瓦が出土した。

土坑77(図9、図版4) 土坑98の北東で検出した土坑で、南北2.8m、東西2.1m、深さ0.3mである。埋土から「大井寺」銘の軒平瓦が出土した。

土坑160(図10、図版4) 2区の南東寄りで検出した土坑である。規模は東西2.6m以上、南北2.5mで隅丸方形を呈し、深さ0.4mで皿状である。埋土から「大井寺」銘の軒平瓦や緑釉陶器などが出土した。

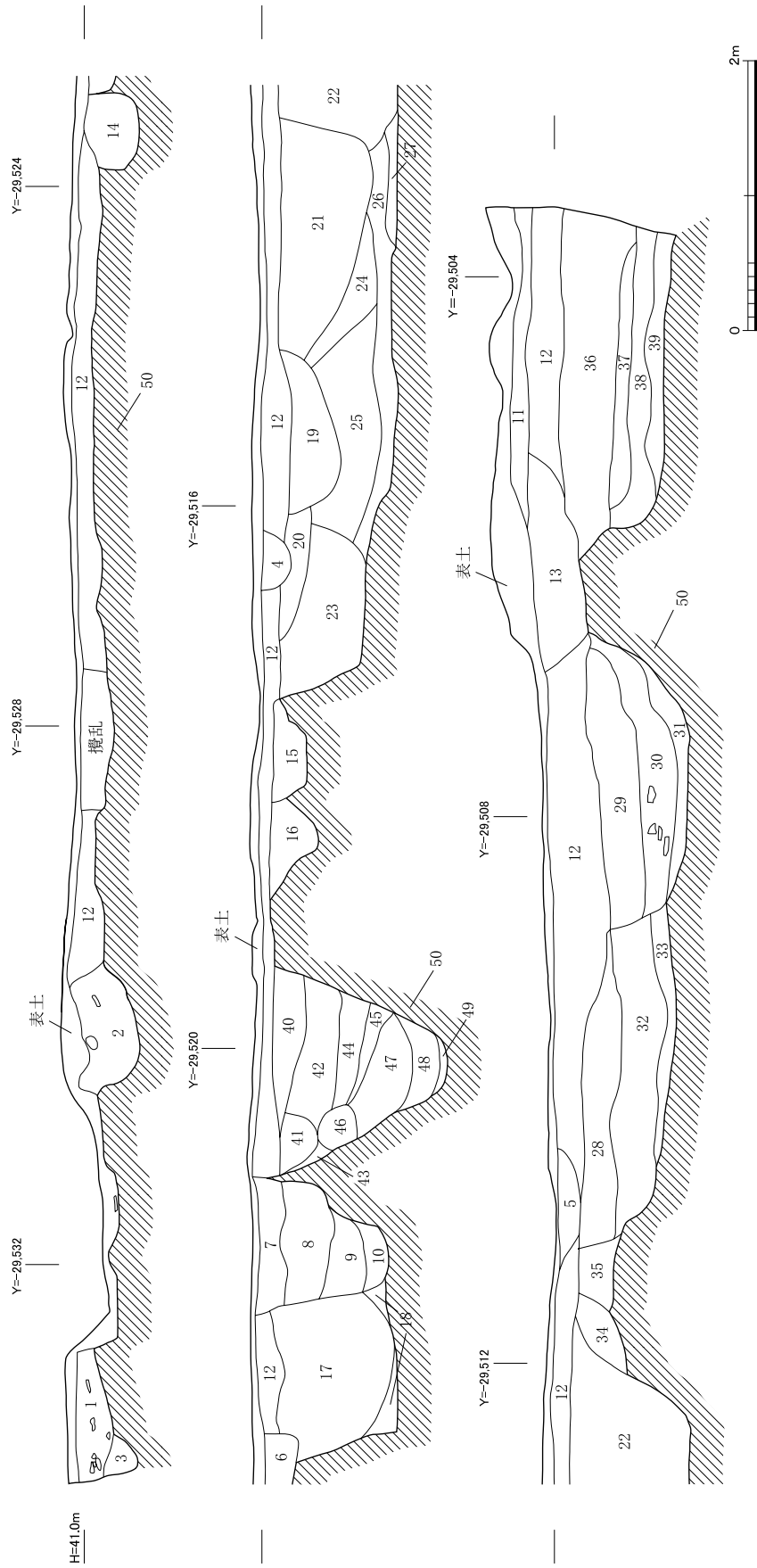
土坑167 2区の南西隅で検出した土坑で、東西4.8m以上、南北1.0以上、深さ0.4mで不定形である。西・南壁の調査区外に広がっており、規模不明である。埋土から多量の瓦が出土した。

土坑243(図10) 土坑167の北で検出した土坑で、西壁に延びている。東西3.0m以上、南北2.7m、深さ0.5mで方形を呈している。埋土から前期の土器が出土した。

土坑290 2区中央の南壁沿いで検出した土坑で、東西端は攪乱を受け、南壁へ延びているため

表2 遺構概要表

時 代	遺 構
平安時代	土坑77・98・160・167・243・290・377、溝92・350・423
鎌倉時代～室町時代	土坑118・275・300、堀86・90・117・119、土取穴131、布掘礎石1、堀1～3、柱穴48・129、落込み426
桃山時代	堀404、井戸21
江戸時代	石列80、集石85、池162、土坑298、石敷315



- | | | | | | |
|----|-----------------------------|----|--------------------------------|----|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色泥砂 小礫、瓦混 | 25 | 10YR4/4 褐色砂泥 土坑63 | 38 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 (土取穴131) |
| 2 | 10YR4/4 褐色泥砂 小礫混 (土坑385) | 26 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 小礫混 | 39 | 10YR3/3 暗褐色泥砂 (土取穴131) |
| 3 | 10YR2/2 黒褐色泥砂 粘性有り (土坑148) | 27 | 10YR4/6 褐色粘質土 (土坑63) | 40 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 礫混 (堀117) |
| 4 | 10YR2/2 黒褐色砂泥 | 28 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 (土坑59) | 41 | 10YR3/2 黒褐色砂泥 小礫混 (堀117) |
| 5 | 10YR4/6 褐色砂泥 小礫多量混 | 29 | 2.5Y3/3 オリーブ褐色泥砂 小礫多量混 (土坑102) | 42 | 10YR3/3 暗褐色泥砂 小礫混、土師器含む (堀117) |
| 6 | 10YR4/4 褐色砂泥 小礫混 (土坑366) | 30 | 10YR2/3 黒褐色粘質土 (土坑130) | 43 | 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 砂礫混 (堀117) |
| 7 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 小礫混 (堀126) | 31 | 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 (土坑130) | 44 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 (堀117) |
| 8 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 棧瓦混 (堀126) | 32 | 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 土師器片含む (土坑59) | 45 | 10YR3/4 暗褐色泥砂 礫混 (堀117) |
| 9 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 小礫混 (堀126) | 33 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 (土坑63) | 46 | 10YR2/3 黒褐色粗砂 (堀117) |
| 10 | 10YR4/6 褐色粘質土 (堀126) | 34 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 礫混 (土坑63) | 47 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 (堀117) |
| 11 | 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂 小礫混 | 35 | 10YR4/4 褐色砂泥 (土坑62) | 48 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 小礫多量混 (堀117) |
| 12 | 10YR4/4 褐色砂泥 小礫混 | 36 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 (土取穴131) | 49 | 10YR4/4 褐色粘質土 (堀117) |
| 13 | 10YR4/6 褐色砂泥 礫混 | 37 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 小礫混 (土取穴131) | 50 | 10YR6/6 明黄褐色泥砂 粘性有り (地山) |

図6 1区北壁断面図 (1:100)

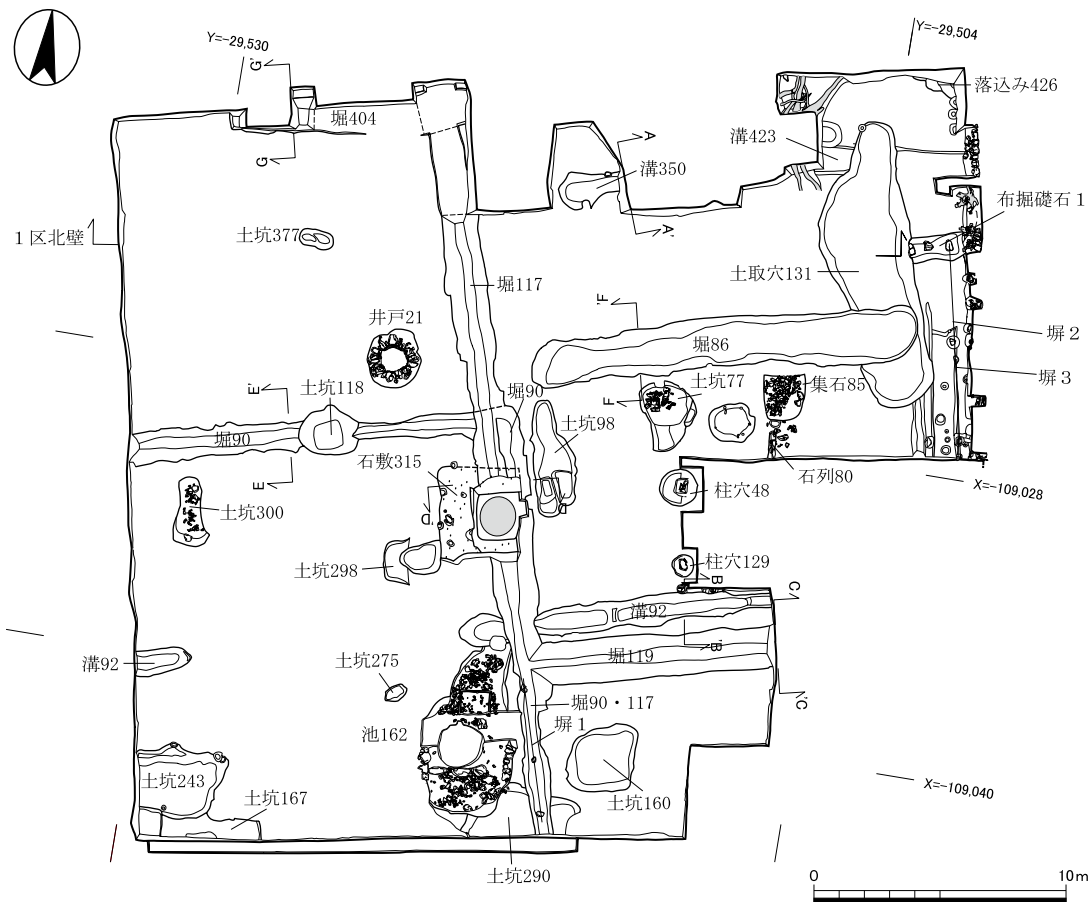


図8 主要遺構図 (1:300)

全体の規模は不明であるが、検出範囲は東西4.8m以上、南北2.0m以上、深さ0.4mで不定形である。埋土は焼土を含む黒色砂泥層で、平安時代の瓦が多量に出土した。

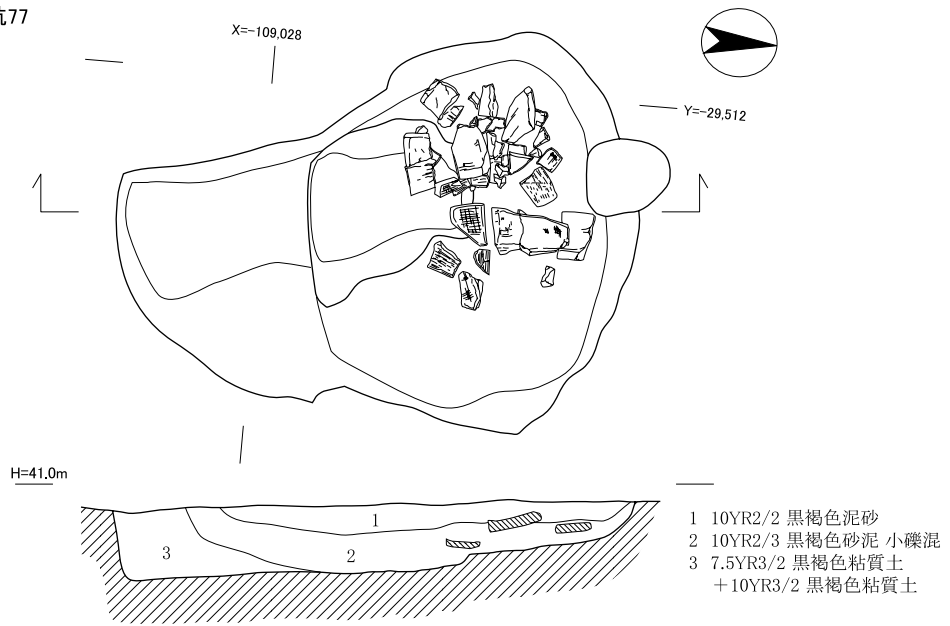
土坑377 5区西寄りで見出した土坑で、東西1.25m、南北0.7m、深さ0.3~0.5mの隅丸長方形である。埋土から平安時代中期の土師器皿が出土した。

溝92 (図10、図版4) 1~3・6区で見出した東西溝で、検出長は東側では11.0m、幅1.2m、深さ0.7~0.95mで、断面形は「U」字形を呈する。東端は調査外に延び、西端は立ち上がり、一旦途切れて10.6m西の2区西側で現れる。西側の溝の西端は調査区外に延びる。検出長は2.0m、幅1.0m、深さ0.6mで、断面形は「U」字形である。東側の溝は東壁より西6mの地点で底が上がっており、掘削単位が2つに分かれ、底部は船底状を呈している。埋土から「大井寺」銘の軒平瓦などが出土した。

溝350 (図10) 5区の中央で見出した東西方向の溝で、南側は攪乱を受けている。検出長は2.4m、幅0.75m、深さ0.3~0.5mで、断面形は「U」字形を呈する。溝は西から東へ深くなっており、横断面形状は溝92に類似している。埋土からは平安時代前期の土師器などが出土した。

溝423 溝350より7m東で見出した溝で、上部と東側は削平され底部だけが残存していた。検出長1.1m、幅1.2m、深さ約0.3mである。埋土は黒褐色泥砂で、平安時代前期の土師器・須恵器が出土した。溝350と埋土や出土遺物の時期などが類似しており、同一の遺構と考えられる。

土坑77



土坑98

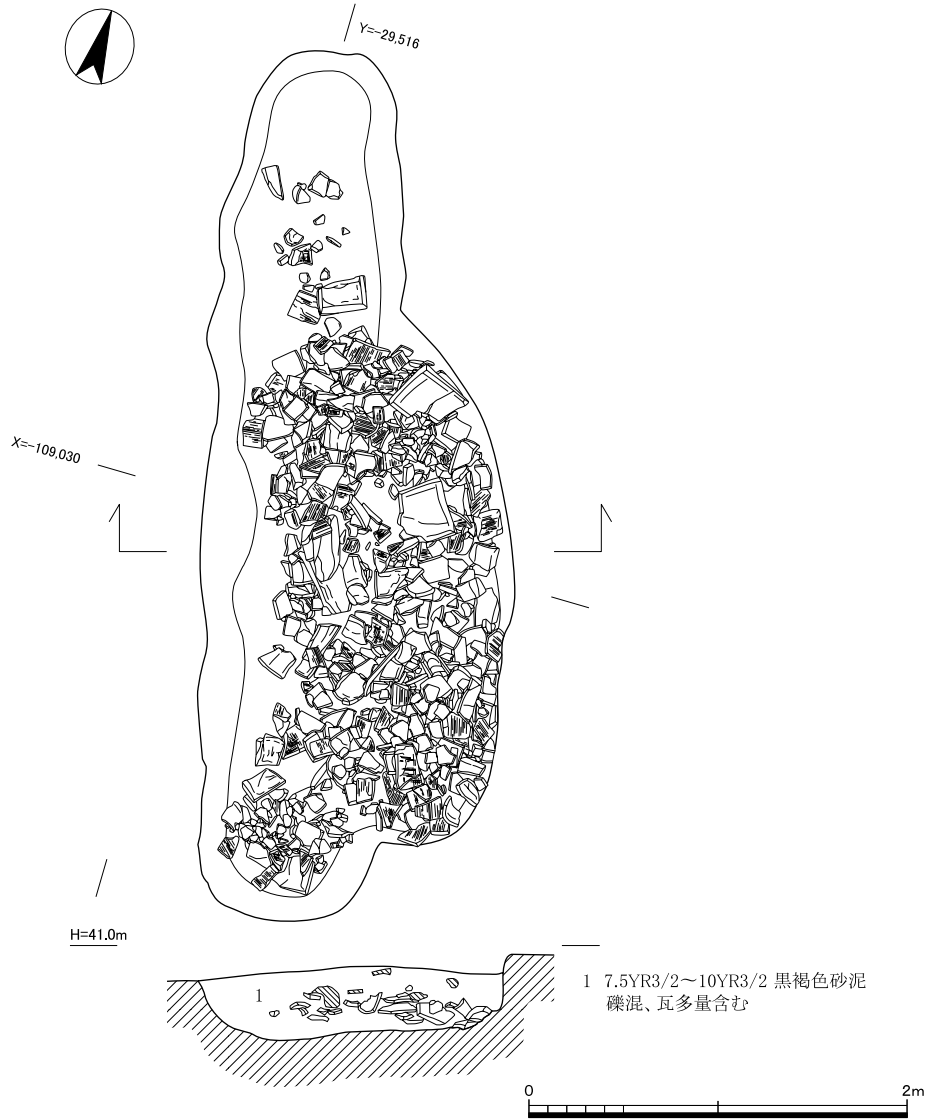
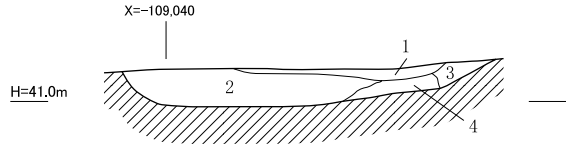
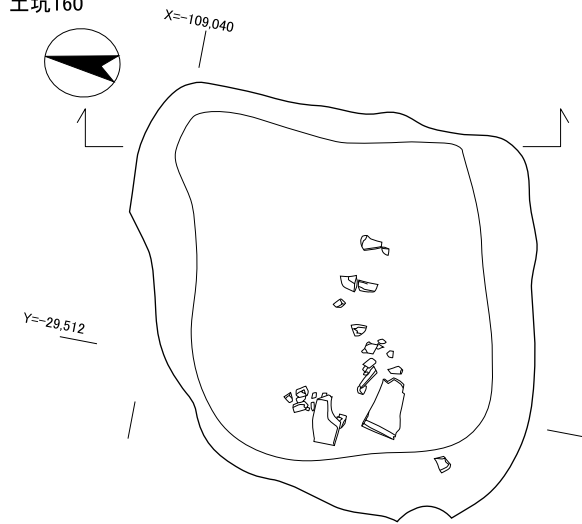


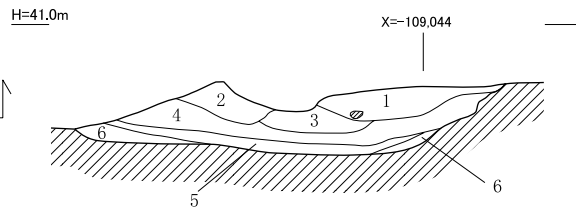
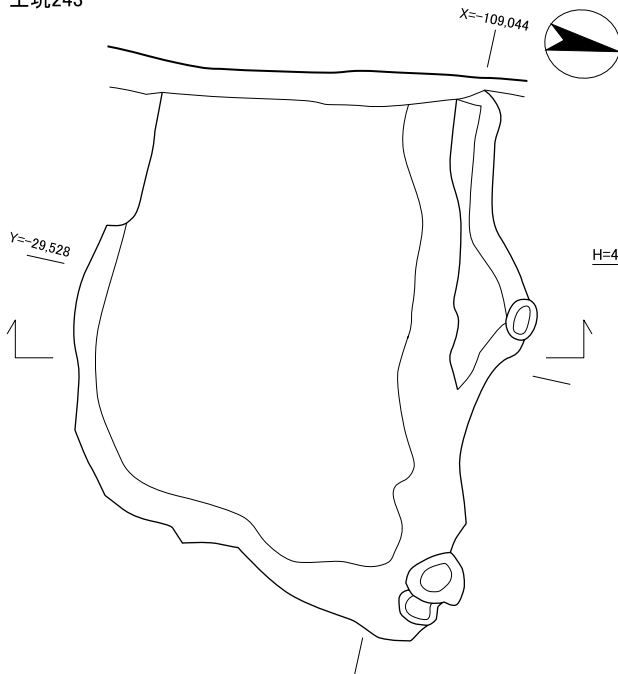
图9 土坑77·98实测图 (1:40)

土坑160



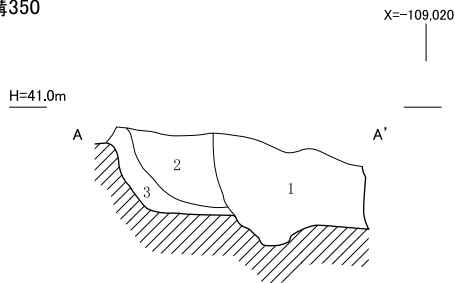
- 1 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
- 2 10YR3/1 黒褐色砂泥 小礫混
- 3 10YR2/3 黒褐色砂泥 粘性強い
- 4 10YR4/6 褐色砂泥 粘性強い

土坑243



- 1 7.5YR2/3 極暗褐色砂泥 礫混、炭少量含む
- 2 10YR2/3 黒褐色砂泥+10YR5/6 黄褐色粘質土 小礫混
- 3 10YR2/2 黒褐色砂泥 小礫混、土師器片、炭少量含む
- 4 10YR3/1 黒色砂泥 小礫混、土師器片、炭少量含む
- 5 10YR2/1 黒色泥砂 細砂混
- 6 2.5Y3/2 黒褐色粘質土

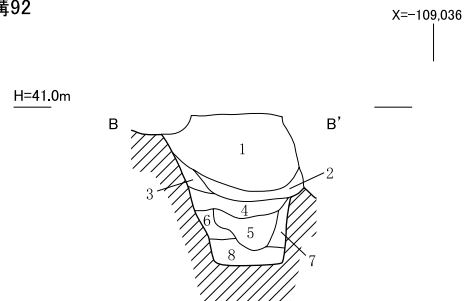
溝350



- 1 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂礫 礫混 (土坑399)
- 2 10YR3/1 黒褐色砂泥 瓦、土師器片含む
- 3 10YR2/3 暗褐色粘質土



溝92



- 1 10YR3/1 黒褐色砂泥 小礫混
- 2 10YR2/3 黒褐色砂礫 小礫混
- 3 10YR4/4 褐色粘質土
- 4 7.5YR3/1 黒褐色砂泥 粘性強い
- 5 10YR3/1 黒褐色砂礫 礫混
- 6 10YR4/4 褐色粘質土
- 7 10YR4/4 褐色粘質土
- 8 7.5YR2/2 黒褐色砂泥

図10 土坑160・243、溝350・92実測図 (1:50)

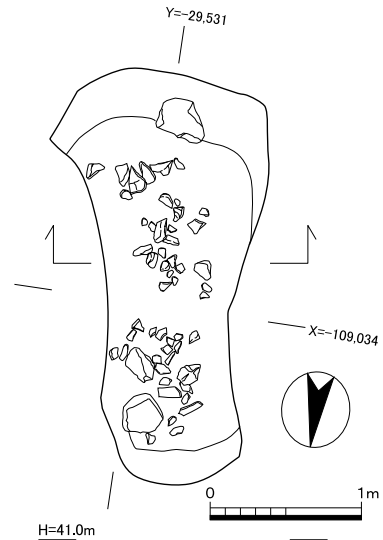
鎌倉時代から室町時代の遺構

鎌倉時代と室町時代の遺構は堀、土坑、土取穴、布掘礎石、塀、ピットなどである。

土坑118 1区西寄りで検出した土坑で、上部は堀90に削平される。東西2.4m、南北1.8mの隅丸方形である。深さ1.8mである。素掘りで掘削が湧水層と思われる砂礫層まで達していることから、井戸の可能性はある。埋土から室町時代前期の土師器皿などが出土した。

土坑275 2区中央で検出した土坑で、長軸0.9m、短軸0.5m、深さ0.2mで不定形である。埋土から鎌倉時代から室町時代前期の土師器皿などが出土した。

土坑300(図11) 3区西寄りで検出した長方形の土坑である。南北2.8m、東西1.2m、深さ0.3mである。埋土は5～25cm大の石と焼締陶器などが多く含まれていた。室町時代前期



1 2.5Y3/2暗オリーブ褐色砂泥
図11 土坑300実測図(1:50)

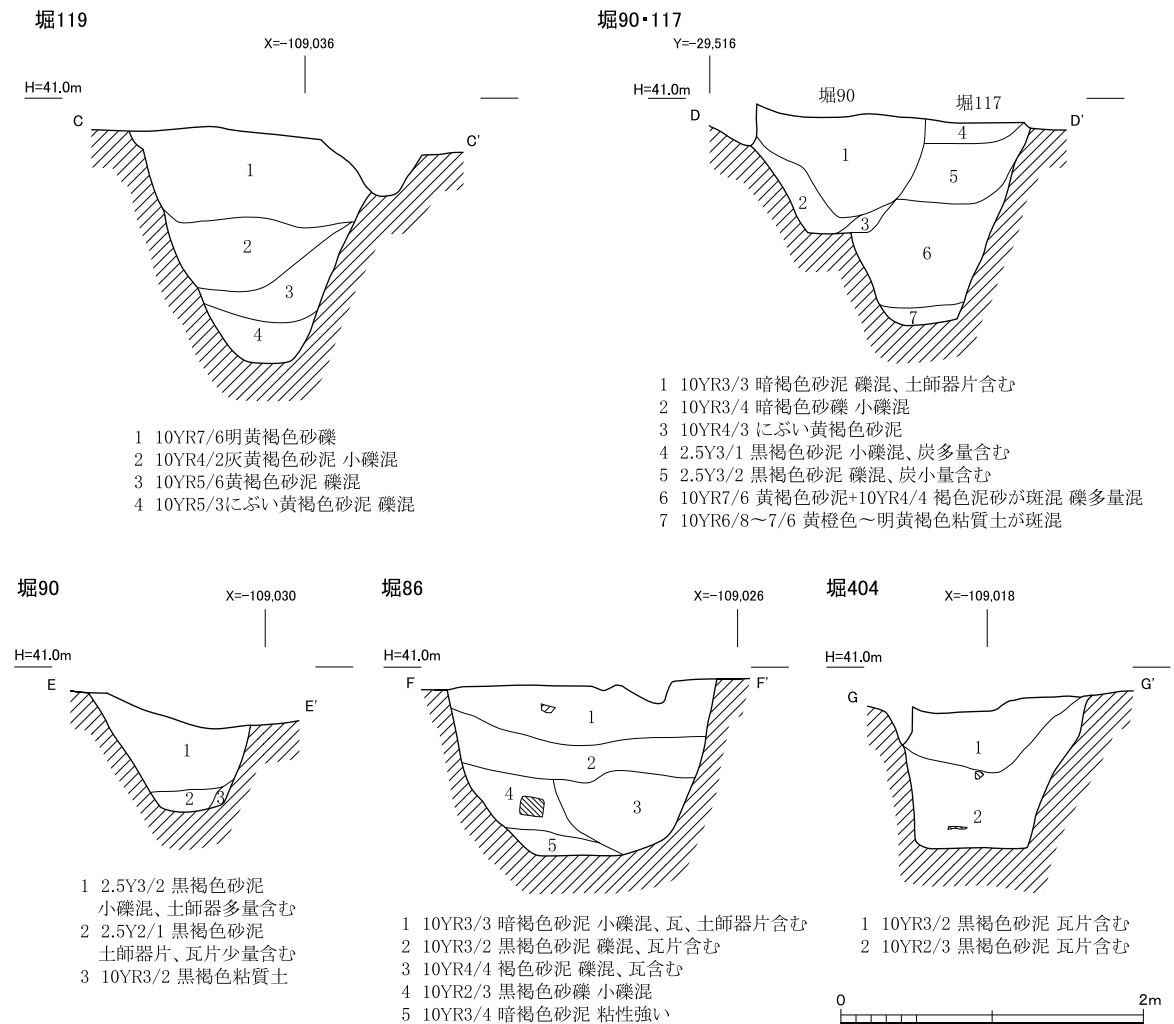


図12 堀119・117・90・86・404断面図(1:50)

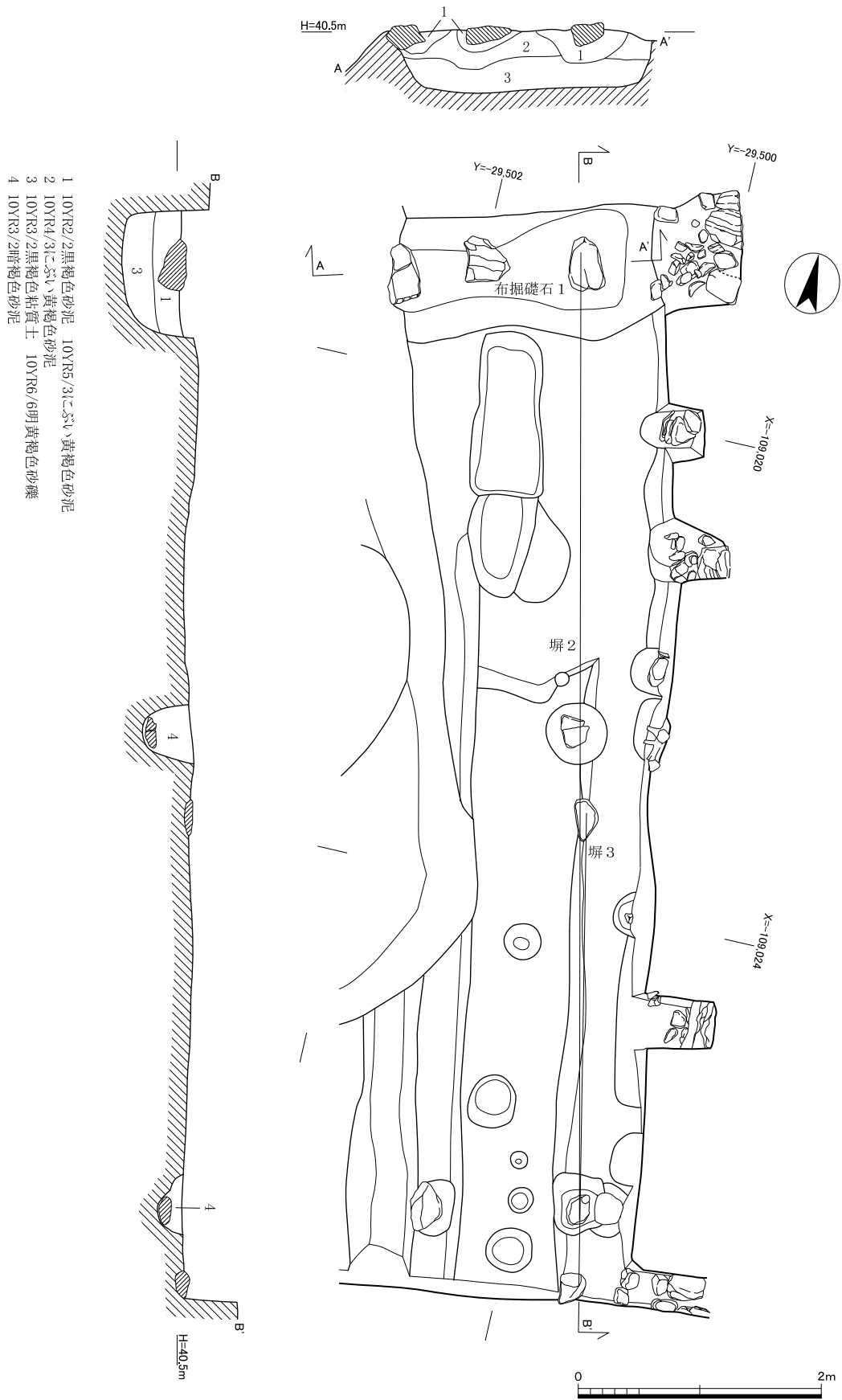


图13 布掘礎石1、塀2・3実測図(1:50)

から中期頃である。

土取穴131 1・5区北東で検出した土取穴で、堀86を削平している遺構で、平面形は南北約11.5m、東西2.7～3.5mの不定形である。深さ約0.8mで袋状を呈する。室町時代後期である。

堀86(図12、図版5) 1区東で検出した東西堀で、検出長15.5m、幅1.8m、深さ1.15mで、断面形は「逆台形」を呈する。両端は立ち上がり消滅する。埋土から室町時代後期の遺物が出土した。

堀90(図12、図版5) 1～3区で検出した堀で、1区西壁から東へ延び、堀117と交差して南へ折れ、西肩を重複して下がり、2区南壁から調査外となる。検出長東西15m、南北17m、幅1.5m、深さ0.9mで、断面形は「V」字形を呈する。埋土から室町時代後期の土師器皿が多量に出土した。

堀117(図12、図版5) 1～3区中央部で検出した南北溝で、検出長は22m、幅1.5m、深さ1.3mで、断面形は「V」字形を呈する。南北端は調査区外に延び、南側では2区で堀119に合流する。

堀119(図12、図版4) 2区で検出した東西堀で、検出長は東壁から西へ10.5m、幅1.8m、深さ1.6mで、断面形は「V」字形である。堀86と平行し、堀間は溝心で12mを測る。

布掘礎石1(図13) 4区北で検出した東西方向の礎石列で、溝状を呈する掘形の中位に礎石を3石据えた布掘り柱列である。礎石は0.3～0.45m大で、柱間は0.4mである。門に伴う遺構と考えられるが、対となる布掘礎石は検出できなかった。出土遺物は小片で、室町時代以降と考えられる。

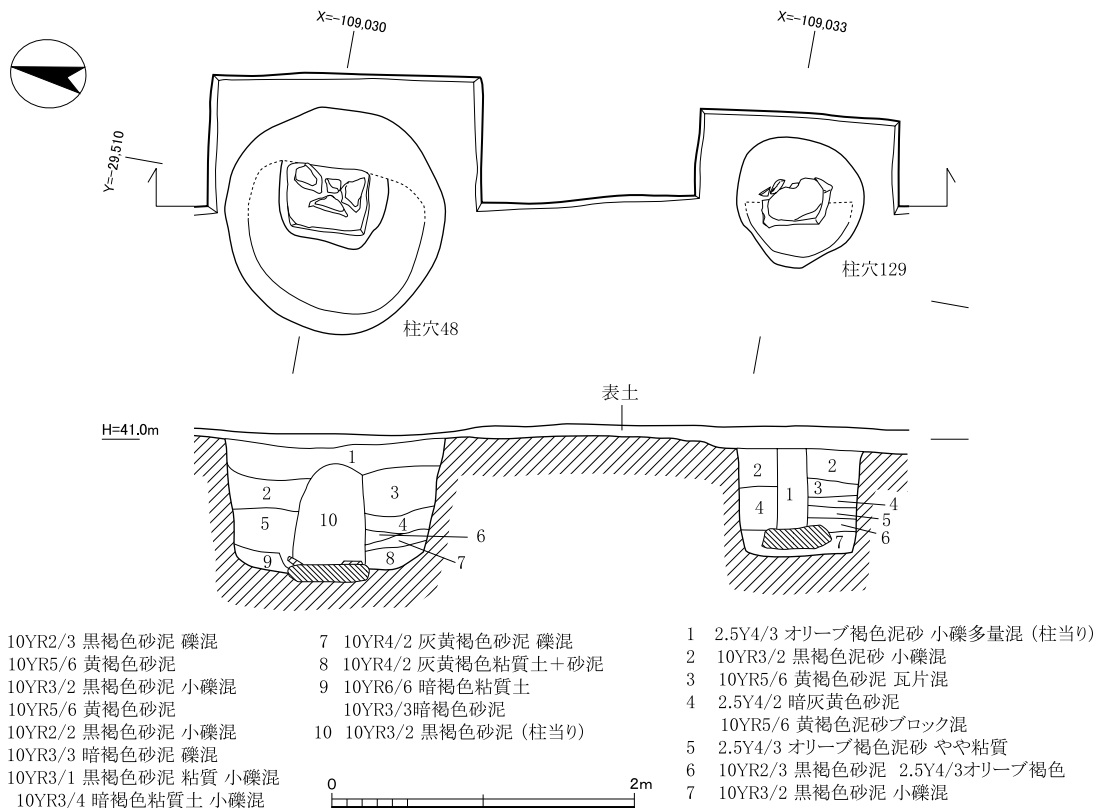


図14 柱穴48・129実測図(1:50)

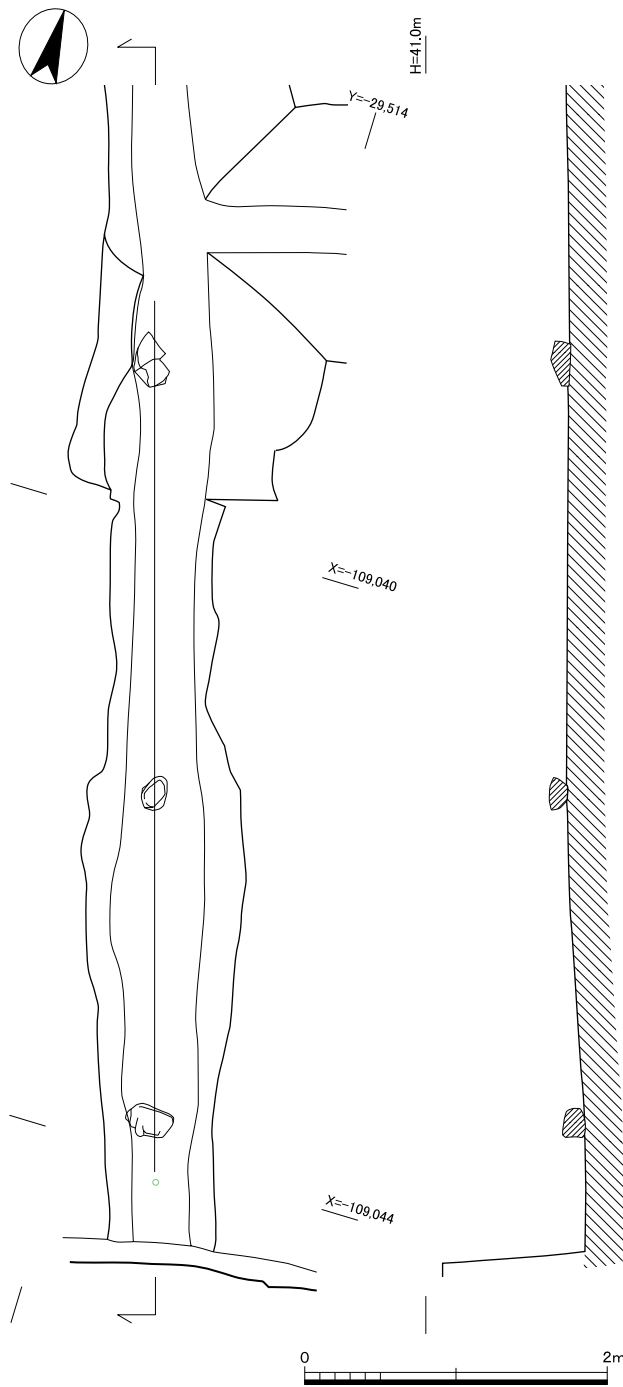


図15 堀1実測図(1:50)

考えられる。

堀3(図13) 堀2の南側で検出した南北方向に礎石2基で、掘形は見られなかった。径0.3~0.4mの平たい石である。柱間は4mで堀2と同じであり、作り替えの可能性はある。

桃山時代の遺構

桃山時代の遺構は堀、井戸などである。

堀404(図12) 5区北西寄りで検出した東西堀である。検出長は9.5m、幅1.4m、深さ0.96mで、断面形は「V」字形を呈する。西端は立ち上がり消滅する。東は調査区外に延びる。

柱穴48(図14、図版6) 1区南東寄りで検出した掘立柱の柱穴で、平面形は円形で径1.4m、深さ1.0mである。柱当り径0.4mで、埋土は版築状に互層になっている。一段掘り込んだ底部には、縦0.55m、横0.4m、厚さ0.1mの花崗岩が据えられていた。

柱穴129(図14、図版6) 柱穴48の4m南で検出した掘立柱の柱穴である。平面形は円形で、径0.8m、深さ0.7mである。柱当り径0.2mで、埋土は版築状に互層に堆積する。底部には長軸0.45m、短軸0.25~0.3m、厚さ0.15mの緑色岩系の石が据えられていた。柱穴48とは規模などが異なるため、対になる遺構とは考えがたい。

堀1(図15、図版5) 2区東寄りで検出した南北方向の礎石列で、堀90内の中位で礎石を3石が並ぶ。柱間は北から3.0m、2.1mである。北側では検出できなかったが、南側に延びている可能性がある。堀を埋めて築地ないし、柵列に造り替えたものと思われる。

堀2(図13) 布掘礎石1の南側で検出した南北方向に柱穴2基で、布掘礎石1と直行している。柱穴は径0.5mで、0.3m大の石が据えられていた。柱間は4mである。布掘礎石1に付随する堀の柱穴と

井戸21（図16、図版6） 1区西寄りで検出した石組井戸で、掘形は径2.1m、内径1.2m、深さ2.2m以上である。湧水があり、安全を考慮して掘削は途中で止めた。埋土から桃山時代の土師器が多量に出土した。

江戸時代の遺構

江戸時代の遺構は石列、集石、土坑、池、ピット、溝などで、中期以降が多い。

石列80（図17、図版6） 1区東寄りで検出した南北方向の石列で、20cm大の長方形の石が南北に3基が並ぶ。検出長は約1mで北側には延びず、南壁の調査区外に続くものとみられる。建物縁石と考えられる。掘形から江戸時代前期の遺物が出土した。

集石85（図17、図版6） 石列80の北側で検出した集石で、北側は攪乱を受けている。規模は南北1.8m以上、東西1.6m、深さ0.3mで不定形である。石列80の関連遺構で、雨水を浸透させる排水施設で、江戸時代前期の土師器が出土した。

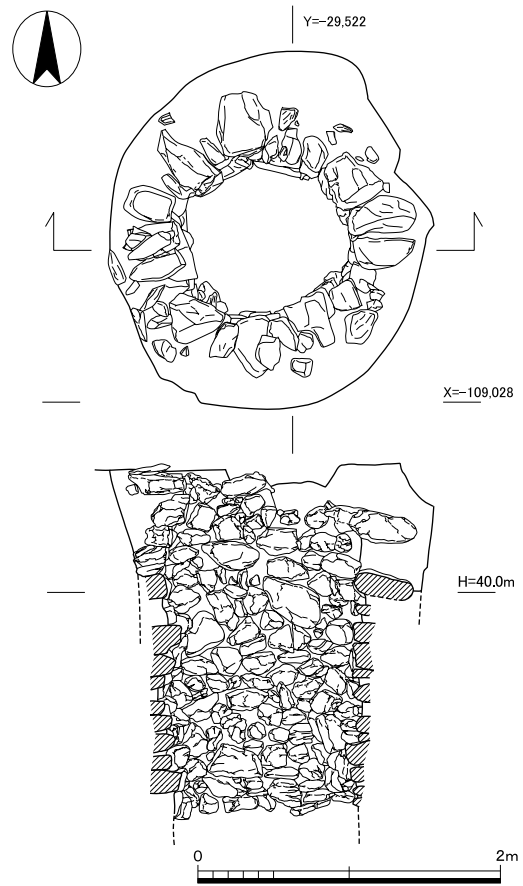


図16 井戸21実測図（1：50）

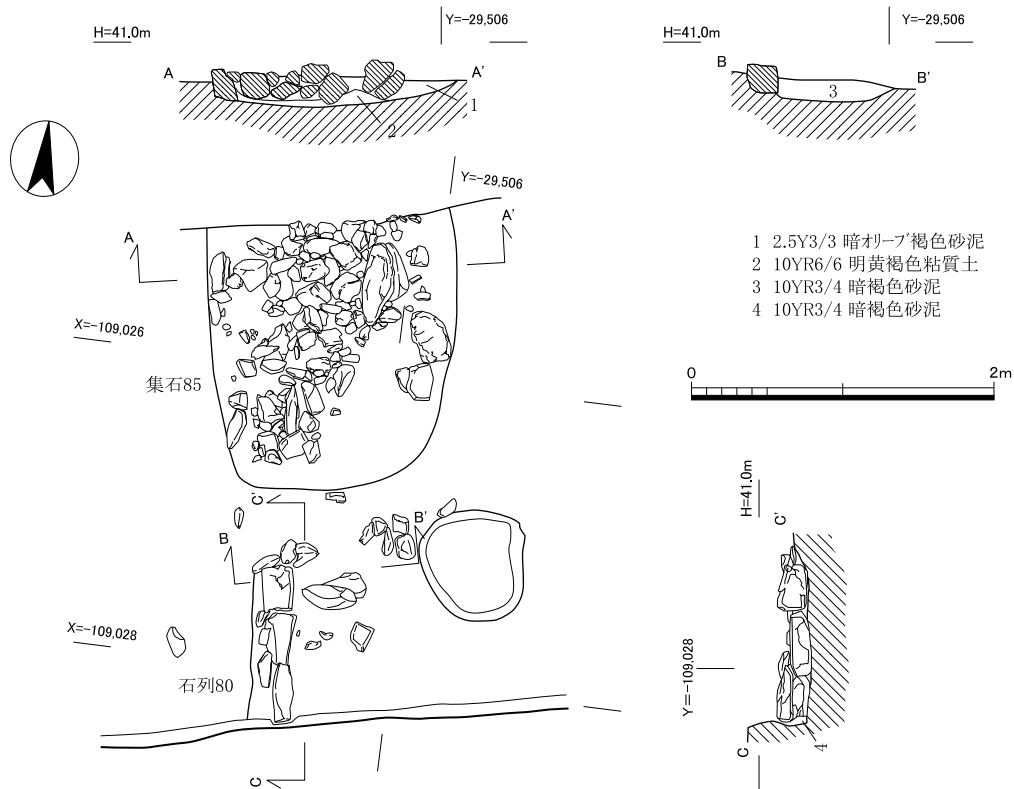


図17 石列80・集石85実測図（1：50）

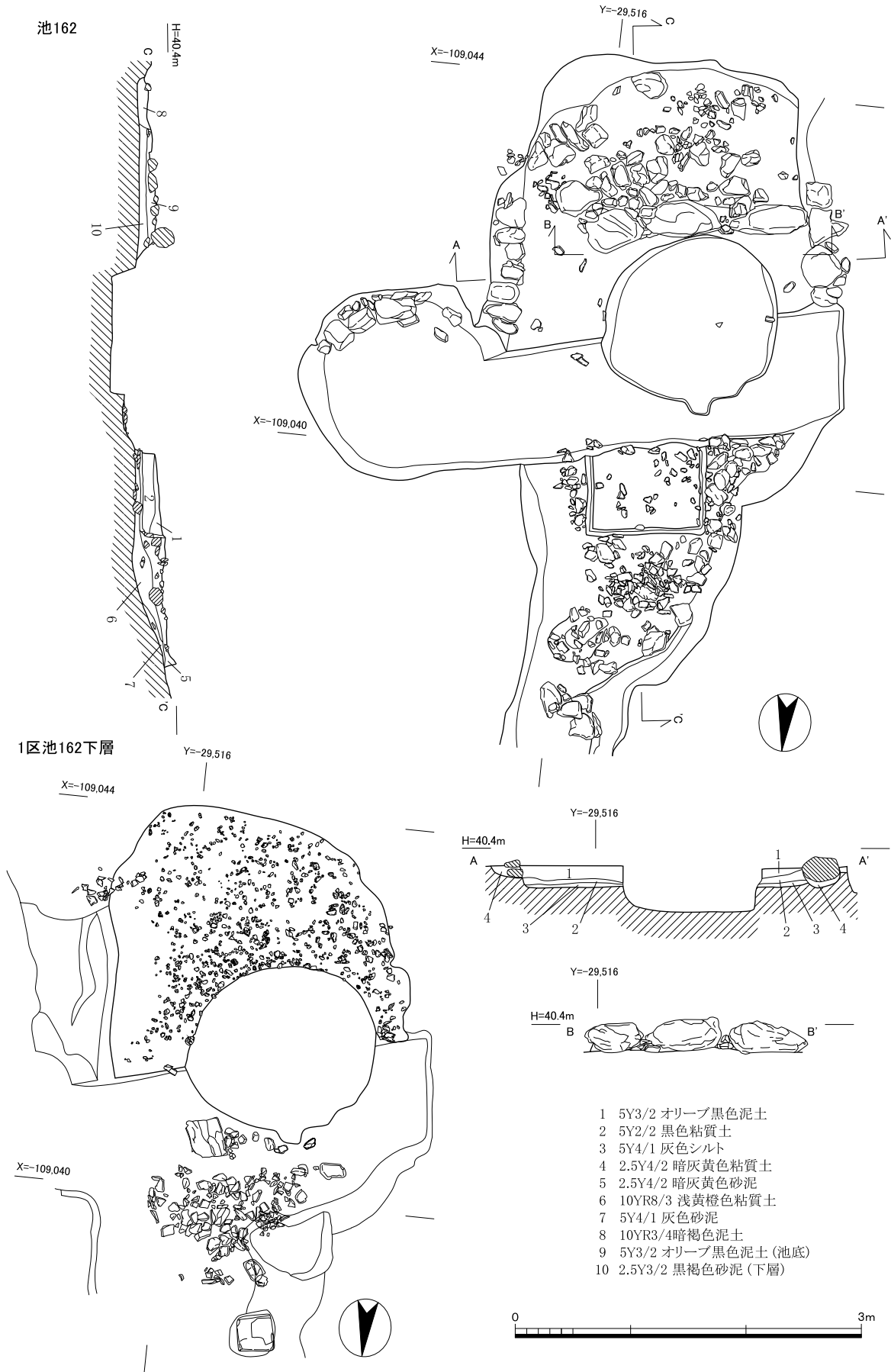
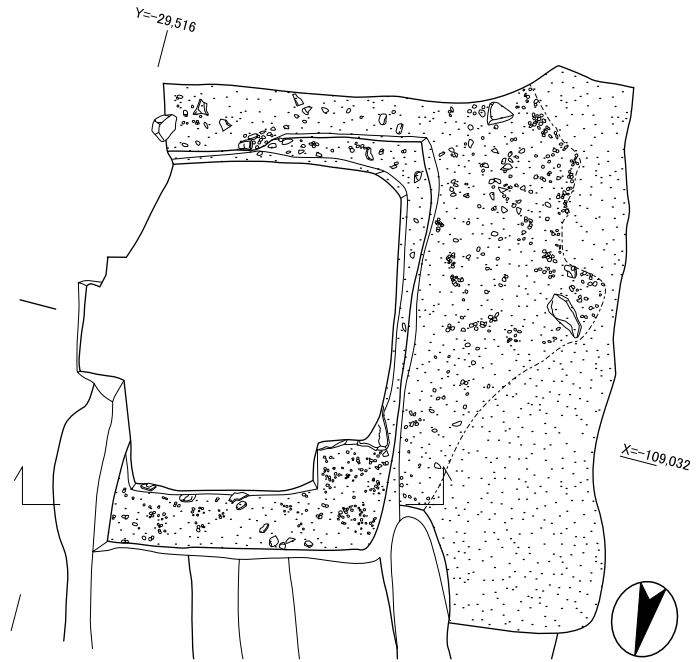
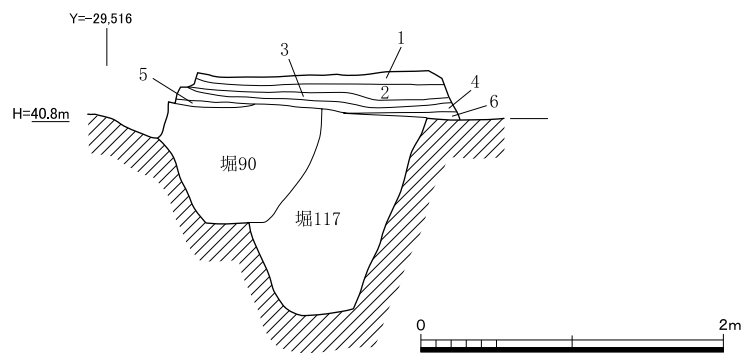


図18 池162実測図 (1 : 50)

池162 (図18、図版7) 2区南寄りで検出した石組池で、検出範囲は東西5.8m、南北3.8m、深さ0.3~0.4mで楕円形を呈する。池底には2~5cm大の石が敷かれている。検出面が地表下0.7mと低く、上部が削平を受けていると思われ、全体像は不明である。さらに、池底を5cm程掘り下げた下層で、2~3cm大の石を敷き詰めた遺構を検出した。北側の2箇所に一辺40cm四方の石が据えられていたことから、石組池の前身の遺構と考えられる。下層の埋土から江戸時代前期の遺物が出土した。



石敷315 (図19) 4区東の堀117・90上面で検出した石敷で、四方は攪乱を受ける。検出範囲は約3m四方で、小礫や砂などで形成されており、4~5面を確認することができた。江戸時代中期以降の遺構と考えられる。



- | | |
|--|---------------------------|
| 1 10YR7/6 黄橙色泥砂
10YR4/2 灰黄色砂泥 小礫混、堅く締まる | 4 10YR5/1 黄褐色泥砂 小礫混、堅く締まる |
| 2 10YR4/4 褐色泥砂 小礫混、瓦片含む | 5 2.5Y5/4 黄褐色細砂 |
| 3 2.5Y4/2 暗灰黄色泥砂 礫混 | 6 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 |

図19 石敷315実測図 (1 : 50)

土坑298 3区で検出した浅い隅丸方形を呈する土坑である。東側は攪乱を受ける。南北1.4m、東西1m以上、深さ0.1~0.3mである。江戸時代前期の遺物がまとめて出土した。

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

出土した遺物は整理箱にして206箱で、縄文時代、弥生時代と平安時代から江戸時代までのものである。その内訳は土器類が4割で、残り6割が瓦類である。土器類は室町時代のもものが最も多く、次に江戸時代、桃山時代、平安時代で鎌倉時代は少量である。なお、平安時代から江戸時代の土器年代は京都の土器編年¹⁾に準拠した。

(2) 土器類 (図20～28、図版8～11、付表1)

弥生時代の土器 (図20、付表1)

堀119出土土器 (図20) 混入遺物として出土したものである。弥生土器(1)は鉢の体部で、外面に凹線文が3条見られる。胎土は粗く、粒砂が混じる。弥生時代中期のものと思われる。

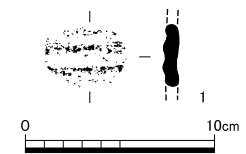


図20 堀119出土土器
実測図 (1 : 4)

平安時代の土器 (図21・22、図版8、付表1)

溝350出土土器 (図21) 土師器は(2～10・13)である。皿A(2～4)は口径13.8～15.2cmで、口縁部の内外面をナデ調整する。椀A(5)は口径13.1cmで、口縁部の内外面をナデ調整、底部外面にはケズリ調整が見られる。杯A(6～9)は口径15.8～16.8cmで、口縁部の内外面をナデ

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
縄文時代	縄文土器	0箱		0箱	0箱
弥生時代	弥生土器	0箱	弥生土器1点	0箱	0箱
平安時代	土師器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器、軒瓦、瓦、埴	84箱	土師器21点、黒色土器1点、須恵器3点、緑釉陶器10点、軒瓦38点、丸瓦2点、埴3点	68箱	0箱
鎌倉時代～室町時代	土師器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦器、須恵器、軒瓦、瓦、埴、石製品	62箱	土師器61点、施釉陶器6点、瓦器6点、焼締陶器1点、輸入陶磁器6点、須恵器1点、軒瓦17点、鬼瓦1点、石製品1点	55箱	0箱
桃山時代	土師器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦器、金属製品	18箱	土師器47点、施釉陶器11点、瓦器1点、焼締陶器3点、輸入磁器3点	14箱	0箱
江戸時代	土師器、施釉陶器、焼締陶器、国産磁器、輸入陶磁器、瓦	71箱	土師器16点、施釉陶器2点、輸入磁器2点、軒瓦10点、石製品2点	69箱	0箱
合計		235箱	275点 (29箱)	206箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より29箱多くなっている。

調整。杯B(10)は内外面を丁寧なナデ調整を施す、貼付け高台。甕(13)は口縁部の内外面はハケメの上を横方向のナデ調整。外面体部は縦方向のハケメ調整。須恵器は杯B(11・12)で、貼付け高台。I期新～II期古に属す。

溝92出土土器(図22) 土師器椀A(14)は口径13.9cmで、外面は指オサエとナデ調整、内面はナデ調整。須恵器杯A(15)は高台部である。I期新～II期古に属す。

土坑98出土土器(図22) 黒色土器杯A(16)は底部で、外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキ調整する。土師器高杯(17)は脚部である。ヘラケズリで7角形に面取りされる。

土取穴131出土土器(図22、図版8) 土師器台付皿(18)は口径18.0cm、器高2.8cmで、ロクロ成形である。高台は貼付けで、外へ開く。内外面ともナデ調整する。緑釉陶器輪花椀(19)は口径18.2cm、器高5.6cmである。口縁部にヘラで刻みを入れ、刻みの真下の内面には柳葉形で中央に稜線が入り隆起させ、外面にはヘラで縦方向に線刻を入れて四弁輪花を表現している。内外面ともヘラミガキを施し、全面に施釉する。内・外底面に目痕がみられる。猿投産。中世の土取穴への混入遺物である。

土坑290出土土器(図22、図版8) 緑釉陶器杯(20)は底部で、内外面にヘラミガキを施し、全面に釉を施す。内面には陰刻花文が施される。猿投産。

土坑167出土土器(図22、図版8) 緑釉陶器皿(21)は口径13.8cm、器高2.7cmである。内面はヘラミガキ調整し、外面はヘラケズリ調整を施す。削り出しの蛇の目高台である。京都産。

土坑160出土土器(図22、図版8) 緑釉陶器鉢(22)は底部で、内外面ともヘラミガキ調整し、全面に施釉する。底部外面の外縁と中央に2条の圏線が認められる。形態から金属器写しと思われる。猿投産。緑釉陶器皿(23)は内外面ともヘラミガキを施し、全面施釉する。削り出しの平高台である。京都産。緑釉陶器椀(24)は内外面ともヘラミガキ調整し、全面に施釉する。削り出しの平高台である。緑釉陶器椀(25・26)はやや大振り、25は口径18.0cm、26は口径19.0cm、内外面ともヘラミガキ調整し、全面に施釉する。いずれも京都産。緑釉陶器鉄鉢(27)は口径15.0cmで、小型である。口縁はやや内湾する。内外面ともヘラミガキ調整し、全面に施釉する。京都産。土師器甕(28・29)は、28は口径26.4cm、29は口径26.8cmである。内外面ともナデ調整し、29の外面には一部ハケメが残る。

土坑243出土土器(図22、図版8) 土師器は(30～32)である。土師器皿A(30)は口径15.6

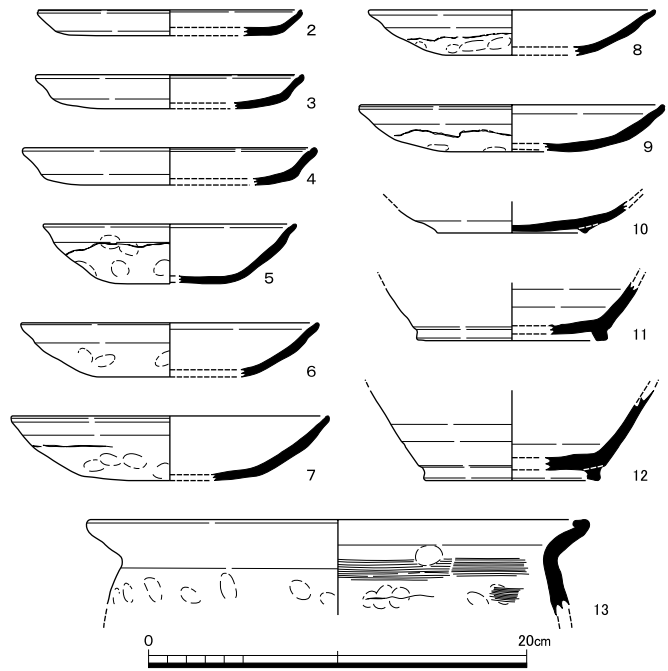


図21 溝350出土土器実測図(1:4)

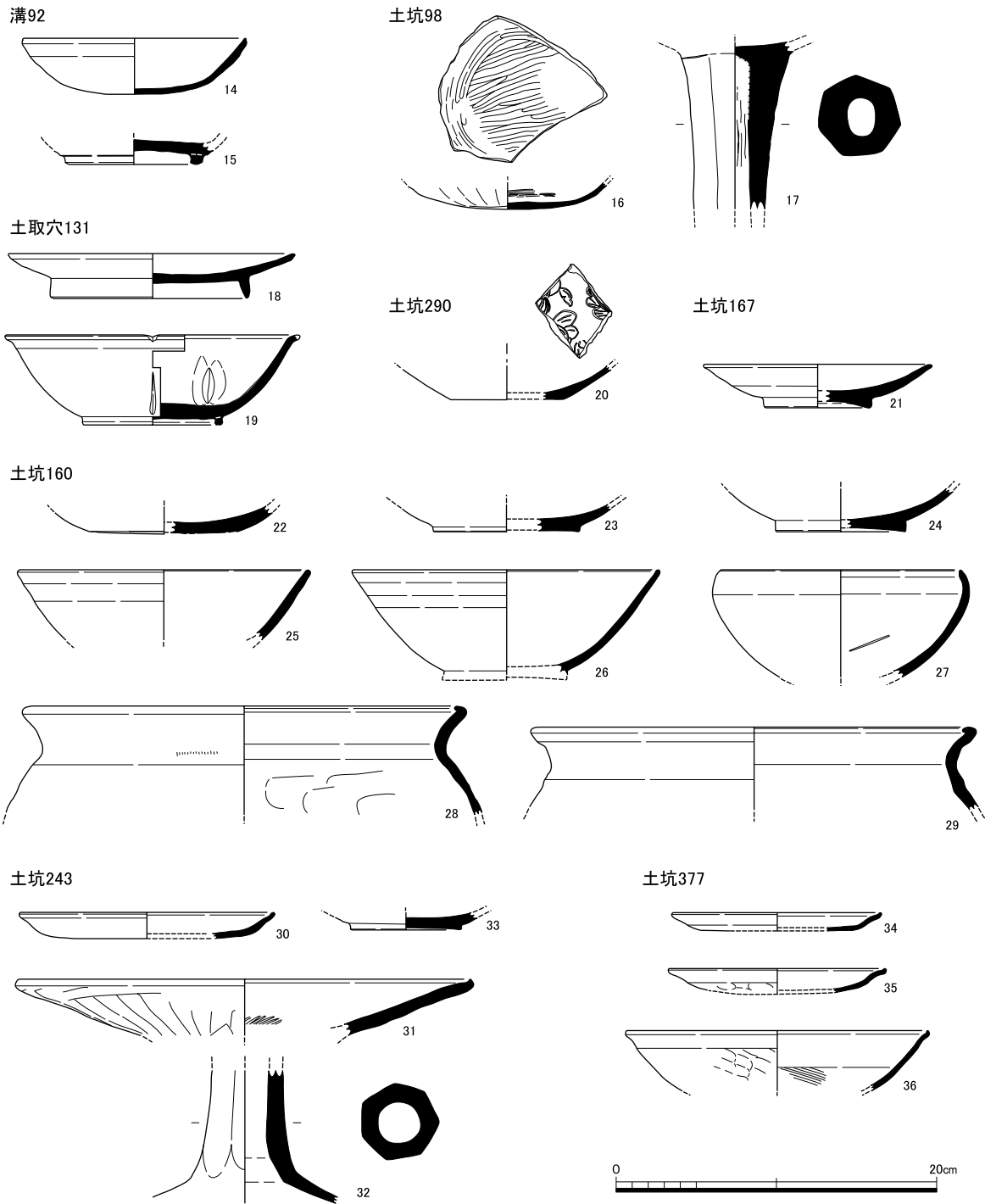


図22 溝92、土坑98、土取穴131、土坑290・167・160・243・377出土土器実測図（1：4）

cm、器高1.6cm。高杯（31・32）は、31は杯部で外面はヘラケズリ成形する。32は脚部でヘラケズリで7角形に面取りされる。緑釉陶器の底部（33）は削り出しの平高台で、糸切り痕跡が残る。内外面ともヘラミガキを施し、施釉する。I期新～II期古に属す。

土坑377出土土器（図22）土師器は（34～36）である。皿A（34・35）は口径13.0cmと13.4cmで、内外面ともナデ調整、器壁が薄い。杯A（36）は口径18.8cmで、内外面ともナデ調整、器壁が薄い。II期新に属す。

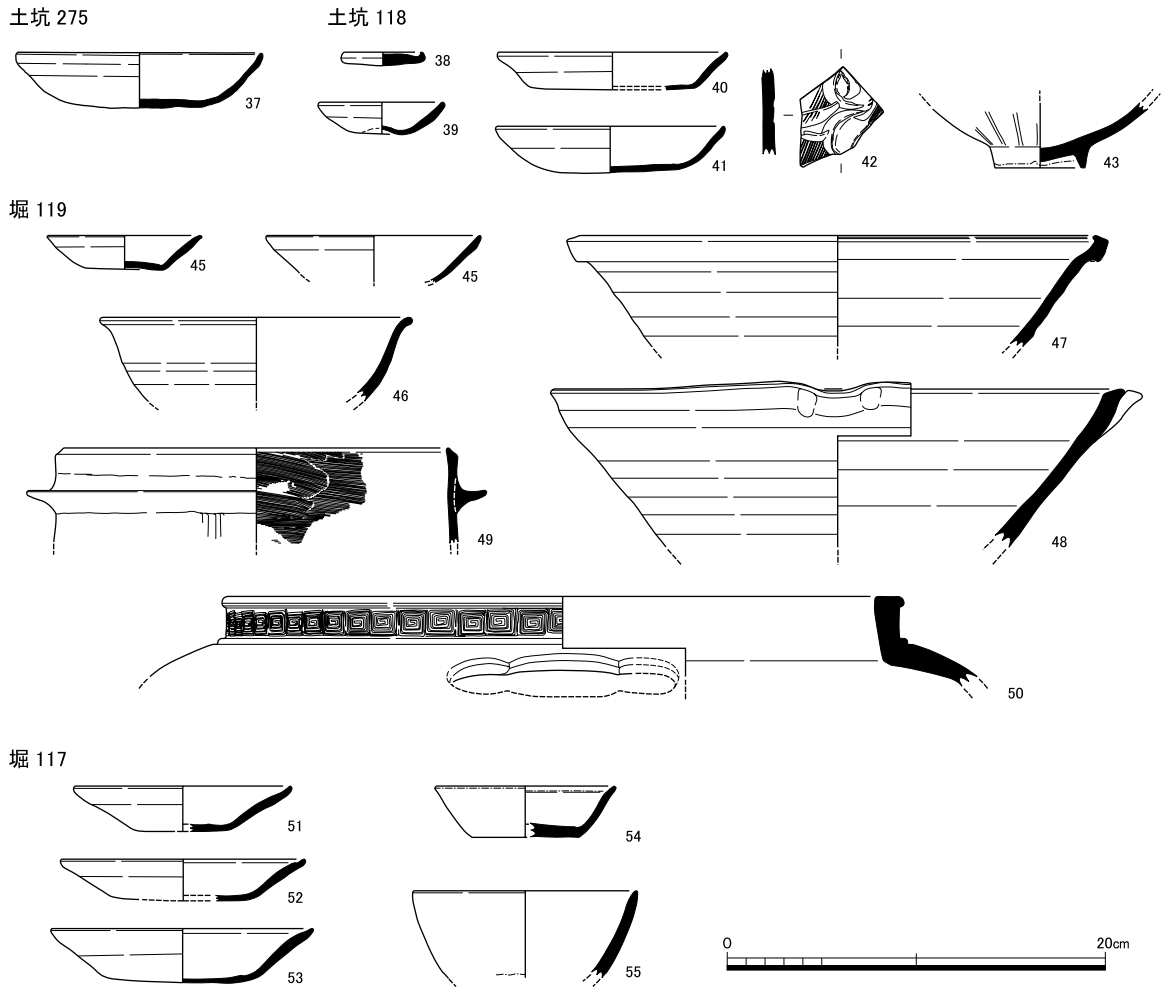


図23 土坑275・118、堀119・117出土土器実測図（1：4）

鎌倉時代から室町時代の土器（図23～25、図版9、付表1）

土坑275出土土器（図23） 少量であるが完形の土師器などが出土した。皿S（37）は口径13.0cmである。Ⅶ期中～新に属す。

土坑118出土土器（図23） 土師器、輸入磁器などが出土した。土師器皿Ac（38）は口径4.0cm。皿Sh（39）は口径6.5cm。皿N（40）は口径12.0cm。皿S（41）は口径12.0cmである。輸入磁器は、体部にヘラ彫りで文様を施す白磁瓶（42）と、外面に蓮弁文を施す青磁椀（43）がある。Ⅷ期新に属す。

堀119出土土器（図23） 土師器、輸入磁器、須恵器、瓦器などが出土した。土師器皿N（44）は口径8.0cm。皿S（45）は口径11.2cmである。輸入磁器は青磁椀（46）がある。須恵器鉢（47）は口径27.2cmで、東播系である。焼締陶器播鉢（48）は信楽産で、口径30.0cm、片口が付く。瓦器は羽釜（49）と風炉（50）がある。風炉は口縁下の頸部に2条の突線を巡らせ、線間には押型の雷文が巡る。体部には山形の円窓を穿たれる。大和産。Ⅷ期新～Ⅸ期古に属す。

堀117出土土器（図23） 土師器、施釉陶器、輸入磁器などが出土した。土師器皿S（51～53）は口径11.4～13.8cmである。輸入磁器の白磁皿（54）の口縁は釉剥ぎである。混入品の可能性がある。施釉陶器の天目茶椀（55）は瀬戸産である。Ⅸ期中～新に属す。

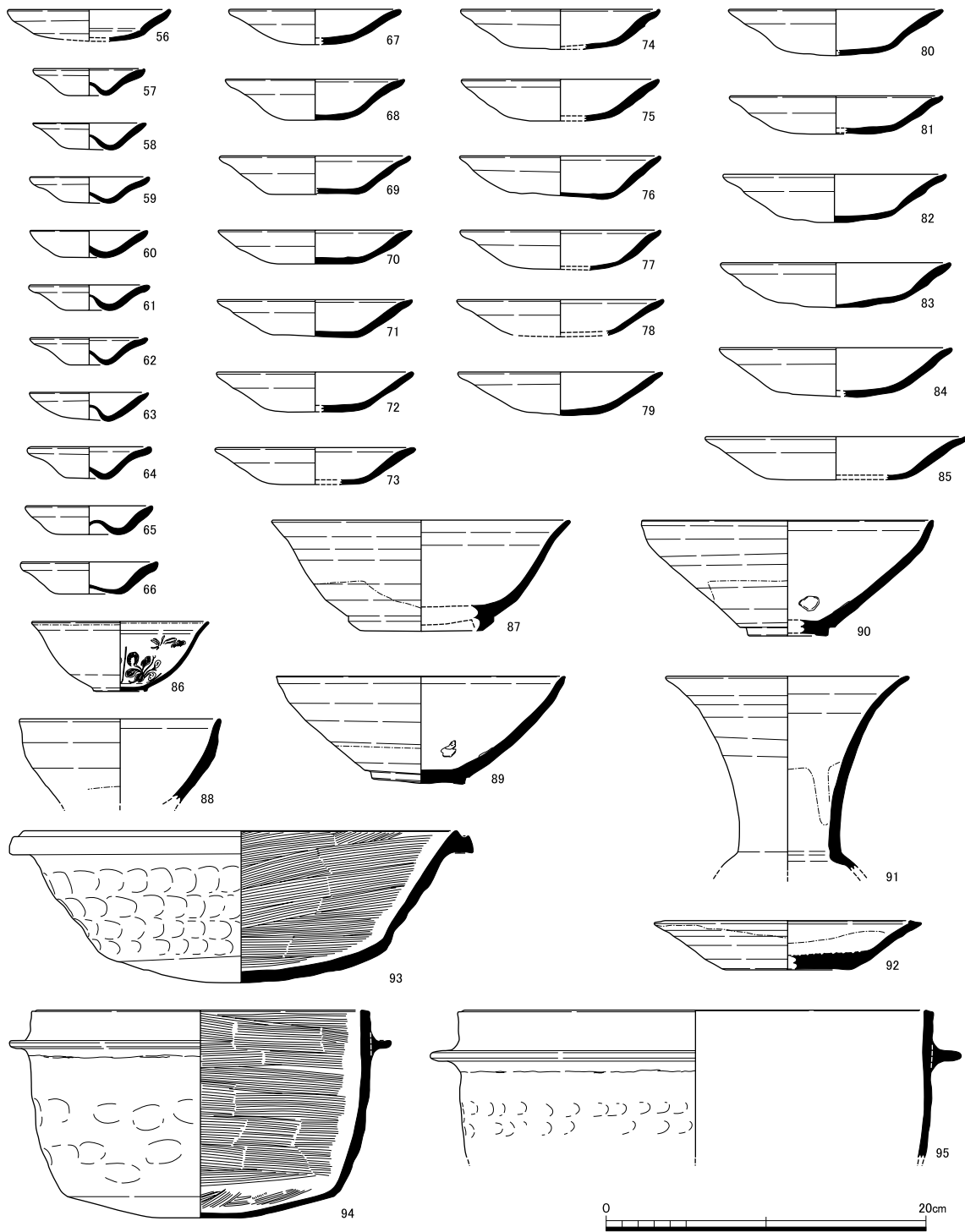


図24 堀90出土土器実測図（1：4）

堀90出土土器（図24、図版9） 土師器、施釉陶器、中国産磁器、瓦器などが整理箱にして7箱出土した。土師器皿N（56）は口径10cm。皿Sh（57～66）は口径7.0～8.4cm。皿S（67～85）は口径10.6～13.2cm、14.0～14.4cm、16.2cmの3群に分れる。輸入磁器は白磁椀（86・87）がある。86は器壁が非常に薄く、口縁は釉禿で、内面には草花文様が型押しされる。87は平茶椀で、見込みと高台以外の体部に施釉される。施釉陶器（88～92）はすべて瀬戸産である。88は天目茶椀。89・90は平茶椀で、高台付近以外に釉を掛ける。見込みに5つの目痕が見られる。91は灰釉花瓶。

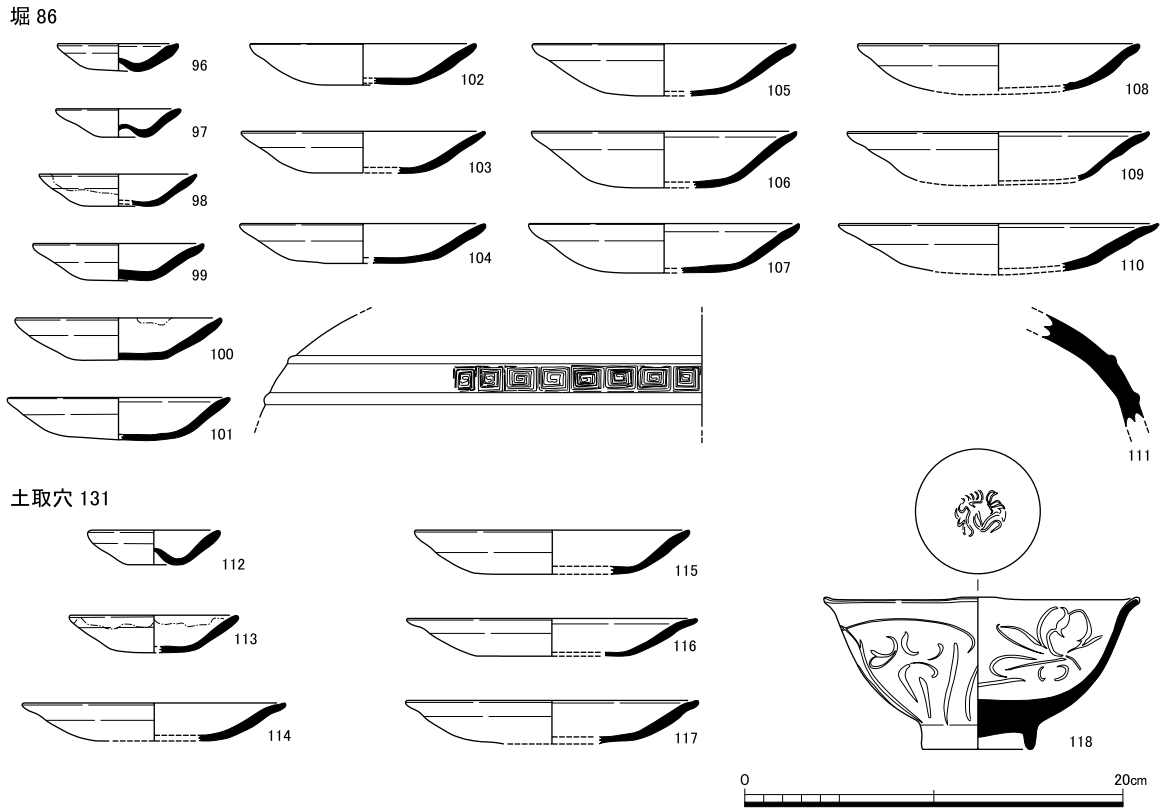


図25 堀86・土取穴131出土土器実測図（1：4）

92は卸目皿である。瓦器は鍋（93）、羽釜（94・95）がある。Ⅸ期中～新に属す。

堀86出土土器（図25） 土師器、瓦器が出土した。土師器皿Sh（96・97）は口径6.4cmと6.5cm。皿S（98～110）は口径8.4～9.0cm、10.8～14.8cm、15.8～16.8cmの3群に分れる。瓦器火鉢（111）は外面胴部に突帯が巡り、内に雷文が刻印される。Ⅸ期新に属す。

土取穴131出土土器（図25） 土師器、輸入磁器が出土した。土師器皿Sh（112）は口径6.8cm。皿S（113～117）は口径6.8～15.4cmである。輸入磁器の青磁椀（118）は内外面と見込みにヘラ彫りで文様を描く。Ⅸ期新に属す。

桃山時代から江戸時代の土器（図26～28、図版10・11、附表1）

井戸21出土土器（図26、図版10） 土師器、施釉陶器、輸入磁器、焼締陶器、瓦器などが整理箱にして12箱出土した。土師器皿Sb（119～131）は口径9.4～9.8cm。皿S（132～154）は口径10.3～11.3cm、11.9～12.6cm、13.1～13.9cmの3群に分れる。皿N（155～160）は口径5.3～7.7cmである。157～159には内面に布目痕が見られる。焼塩壺身（161）は京都産である。162は瓦器の香炉で、外面に花卉文様が押印される。施釉陶器（163～171）はすべて瀬戸の製品である。163～167は灰釉丸皿で、163は内禿皿、164～167は全面釉掛けで、165は内面に輪トチンが見られる。168は灰釉丸椀で、高台以外は全面に釉を掛ける。169は天目茶椀である。170・171は鉄釉稜皿で、口縁外面から内面全体に釉を掛ける。焼締陶器は、備前壺（172）・丹波播鉢（173）・信楽播鉢（174）がある。丹波播鉢（173）は口径33.8cm、高さ15.0cmで、片口が付き、播目は単線で外面に指オサエ痕が付く。信楽播鉢（174）は口径29.0cm、播目は5本1単位である。輸入磁器は、碁笥高台の

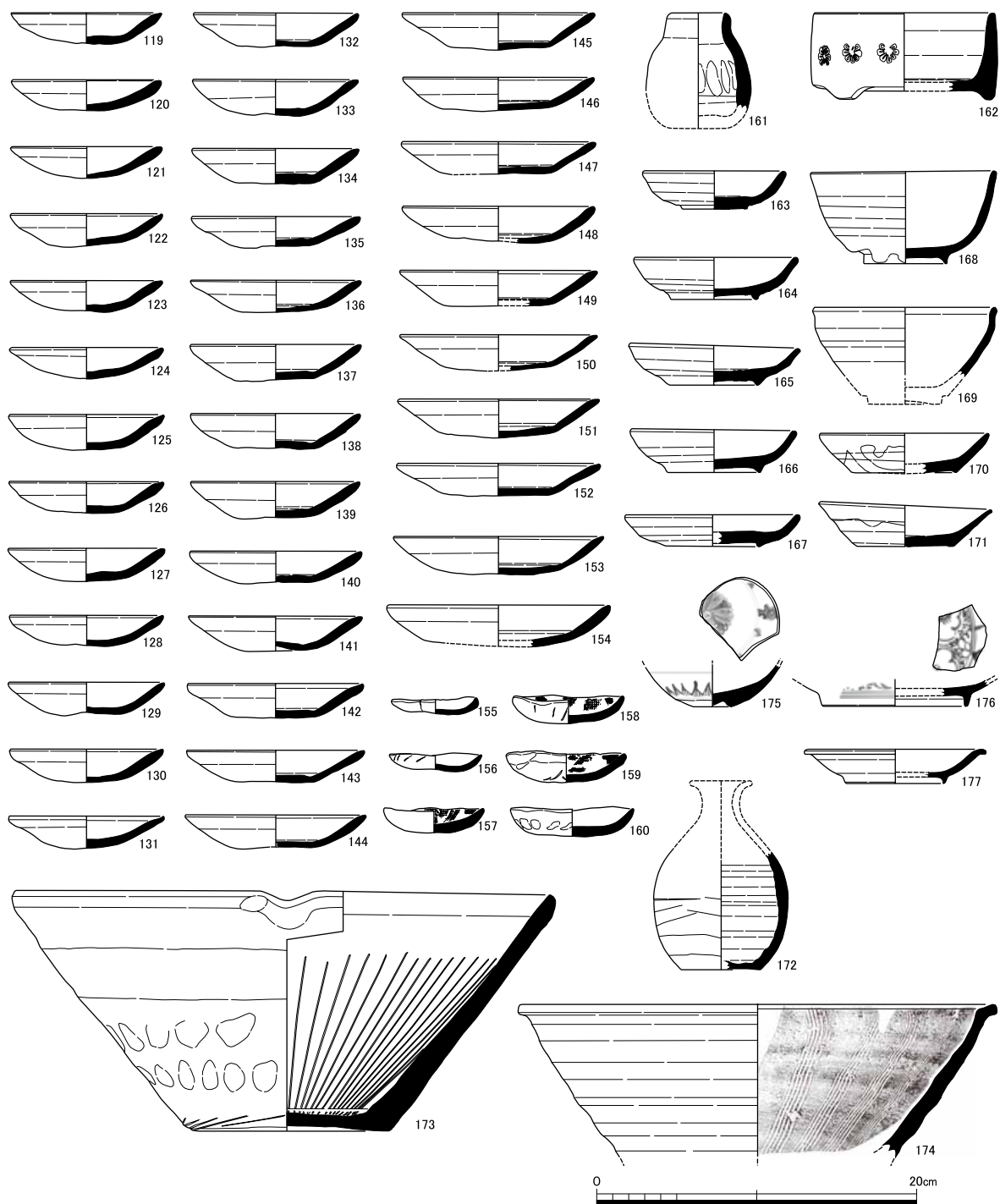


図26 井戸21出土土器実測図(1:4)

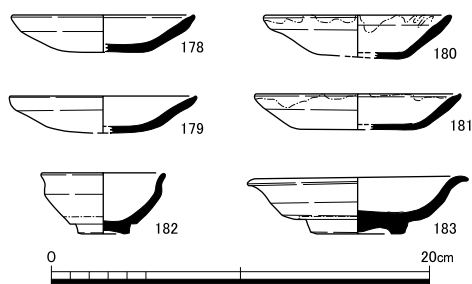


図27 堀404出土土器実測図(1:4)

椀(175)・皿(176)・小振りの白磁皿(177)がある。XI期古の古相(16世紀末)に属す。

堀404出土土器(図27、図版11) 土師器、施釉陶器が出土した。土師器皿Sb(178・179)は口径9.6cmと9.8cm、皿S(180・181)は口径9.9cmと10.9cmで、口縁部に煤が付着する。施釉陶器は、瀬戸の鉄釉小椀(182)と唐津の皿(183)がある。京都XI期古に属する。

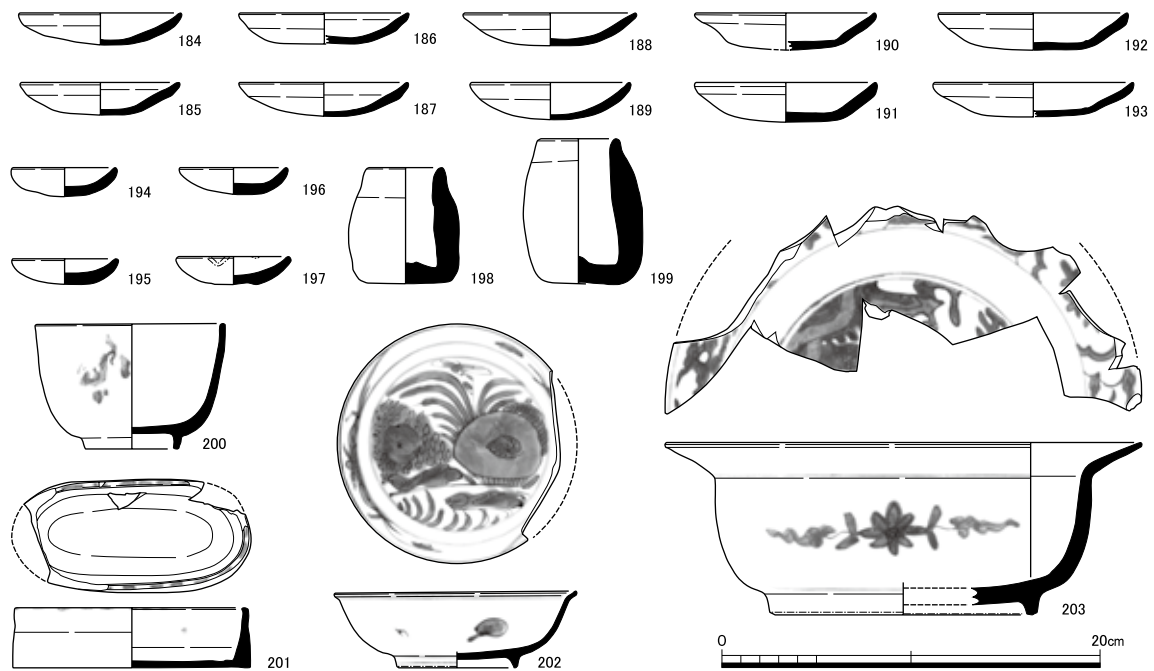


図28 土坑298出土土器実測図（1：4）

土坑298出土土器（図28、図版11） 土師器、施釉陶器、輸入磁器が出土した。土師器皿Sb(184～188)は口径8.4～9.0cmである。皿S(189～193)は口径8.4～10.4cmである。皿Sは器高が低く、口縁部の端面を持たない。器壁が厚く、圈線が不明瞭である。京内で出土するものとやや異なることから在地系の土器と考える。土師器皿Nr(194～197)は口径5.4～5.8cmである。197の口縁部には灯明芯の痕跡が残る。焼塩壺身(198・199)は芯に粘土を巻き付けて成形した円筒形で、外面はナデ調整を施す。京都産である。施釉陶器は肥前椀(200)がある。器壁が薄く、畳付け以外は透明釉全面掛け、外面体部に鉄釉の文様がある。このほか、軟質系の鬚付容器(201)がある。全面に釉掛けし、口縁部に斑点状に緑釉を掛ける。輸入磁器は、染付鉢(202)と盤(203)がある。京都Ⅱ期古に属する。

(3) 瓦塼類（図29～38、図版12～16、付表2～4）

瓦は平安時代から江戸時代までの各遺構から多量に出土した。その中で軒瓦は平安時代のものがもっとも多く、次いで室町時代、平安時代後期から鎌倉時代のものである。軒瓦以外では鬼瓦、塼などが出土した。

軒丸瓦（図29・30、図版12・13、付表2）

瓦1・2は内区文様が不明だが、蓮華文軒丸瓦と考えられる。平坦な外区外縁に圈線と線鋸歯文、外区内縁に珠文を配しており、外区外縁の外側には周縁が断面楔状に立ち上がる。丸瓦の接合は瓦当部裏側に溝を設け、丸瓦を挿入し、粘土を充填して接合する。丸瓦部凸面は、瓦当面側から後方へタテ方向にヘラケズリを施し、ナデで調整する。瓦当裏面もナデ調整。胎土は粗く、砂粒が混じり、やや軟質である。瓦1は土坑167から、瓦2は7区の遺構検出中に出土した。

瓦3～6は単弁11弁蓮華文軒丸瓦。瓦当面は中心に向かって盛り上がり、側面に周縁までかぶ

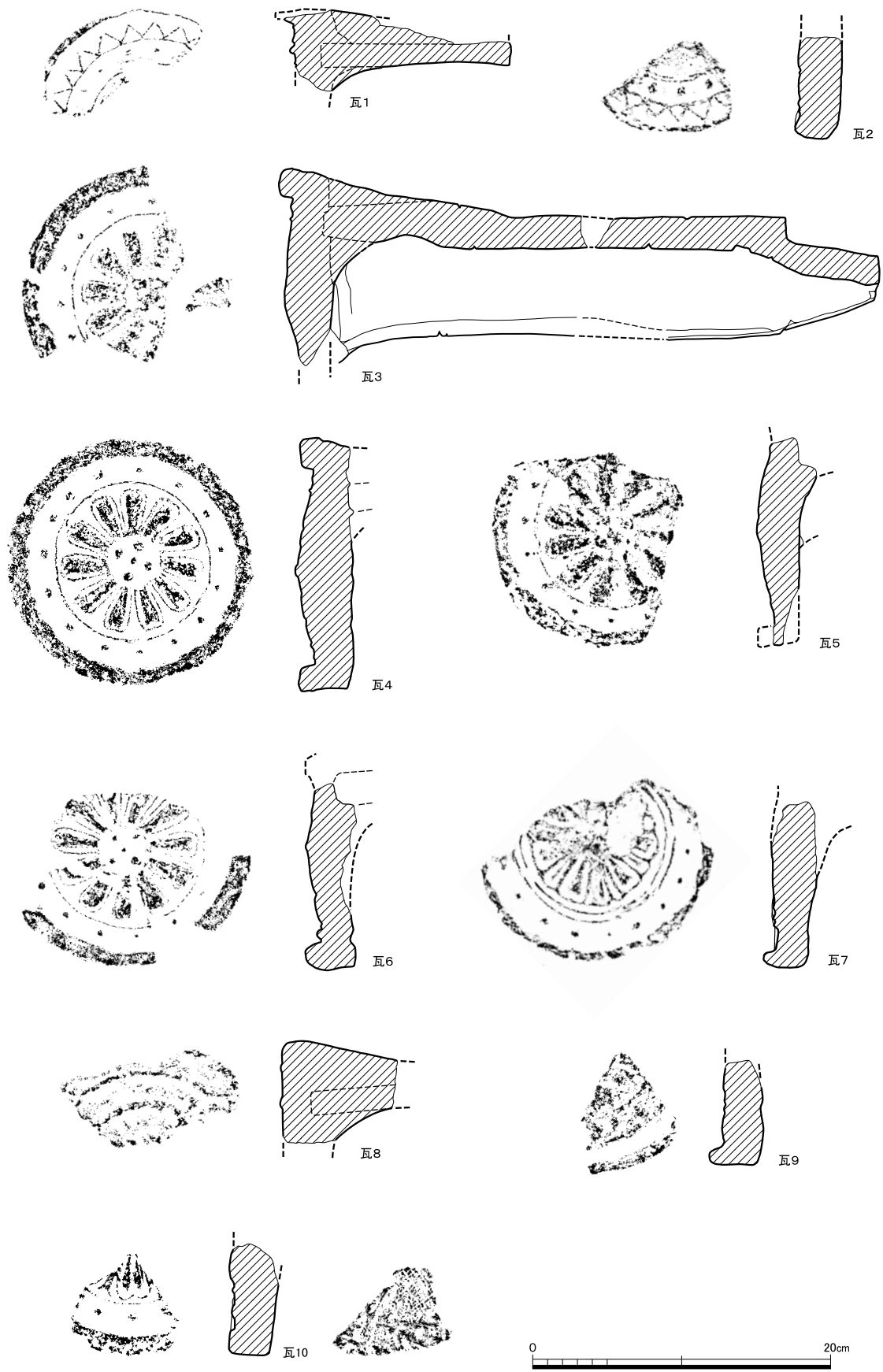


图29 軒丸瓦拓影·实测图1 (1:4)

る瓦範の痕跡が残る。瓦当の裏側上半にユビナデで丸瓦接合部を明示し、そこに丸瓦端部を強く押しつけた後に接合部を強いユビオサエで固定し、丸瓦の凹凸両面から多量粘土を付加して接合する。瓦当裏面はオサエ気味のユビナデ、側面はヨコナデで瓦3・6には板状工具による痕跡が認められる。瓦3では丸瓦部凸面はタテナデで縄タキ痕跡が残り、玉縁は凸面ナデ調整で側面は面取りする。胎土は砂粒が混じり、軟質である。瓦3・4は溝92から、瓦6は土坑160から、瓦5は5区東端部の中世ピットから出土した。

瓦7は単弁8弁蓮華文軒丸瓦。二重の界線で内区がやや盛り上がる。細かい間弁も単弁状を呈する。瓦当側面に周縁までかぶる瓦範の痕跡が残る。瓦当の裏側上半にユビナデで丸瓦接合部を明示し、そこに丸瓦端部を強く押しつけて接合する。瓦当裏面はユビナデ、側面は上半がタテナデ、下半がヨコナデである。砂粒が混じり、やや軟質である。7区の遺構検出中に出土した。

瓦8は重圏文軒丸瓦。調整は磨滅のため不明。瓦当部裏側に溝を設け、丸瓦を挿入し、補足粘土で接合する。胎土は砂粒が混じり、やや軟質である。2区から3区にまたがる土坑から混入して出土した。

瓦9は単弁蓮華文軒丸瓦。外区は二重の界線の中に珠文を配し、内区連弁は不定形である。磨滅のため詳細不明だが、珠文や内区連弁の範崩れが著しく、長岡宮7194型式の可能性はある。胎土は砂粒が混じり、やや軟質である。1区西半の井戸21の北に接する近世土坑から混入瓦として出土した。

瓦10は複弁蓮華文軒丸瓦。蓮弁は盛り上がり、間弁は撥形である。瓦当裏面に布目痕を残す一本作り技法で、栗栖野瓦窯産と考えられる。胎土は粗く、砂粒が混じり、軟質である。4区の掘り下げ中に出土した。

瓦11は小型の蓮華文軒丸瓦。外区に珠文を配する。内区は複弁蓮華文と考えられる。凸面周縁部はタテナデで、周縁部付近はヨコナデ。裏面はユビナデである。胎土は砂粒が混じり、やや軟質である。5区西端部の土坑から出土した。

瓦12・13は珠文をもたない小型の三巴文軒丸瓦。内区に左巻きの巴文を配し、周縁が立ちあがる。瓦12は完形で、丸瓦部は無段式である。磨滅が激しく調整は不明だが、丸瓦部凸面はタテヘラケズリ、瓦当裏面と側面下半はヨコナデ。瓦13は、瓦当裏面はオサエぎみのナデで、下端部が丸味をおびる。砂粒が混じり、軟質である。瓦12は堀90、瓦13は堀86から出土した。

瓦14は三巴文軒丸瓦。外区に大きな珠文を密に配し、内区に右巻きの巴文を配する。瓦当面に離れ砂が見られる。丸瓦凹面端部に縦方向の刻みをいれて接合する。瓦当裏面はナデ、丸瓦部凸面はタテナデ、凹面には細かい布目が残り側端部を大きく面取りする。胎土は硬質である。井戸21から出土した。

瓦15はやや小型の三巴文軒丸瓦。外区に小さな珠文を密に配し、内区に左巻きの巴文を配する。周縁左上に「○」押印が見られる。厚手の丸瓦を接合した後、瓦当裏面から凹面にかけてヨコナデを施す。丸瓦部凹面には吊り紐痕跡が残る。丸瓦部凸面はタテナデ、瓦当側面下半はヨコナデ。胎土は砂粒が混じり、硬質である。池162から出土した。

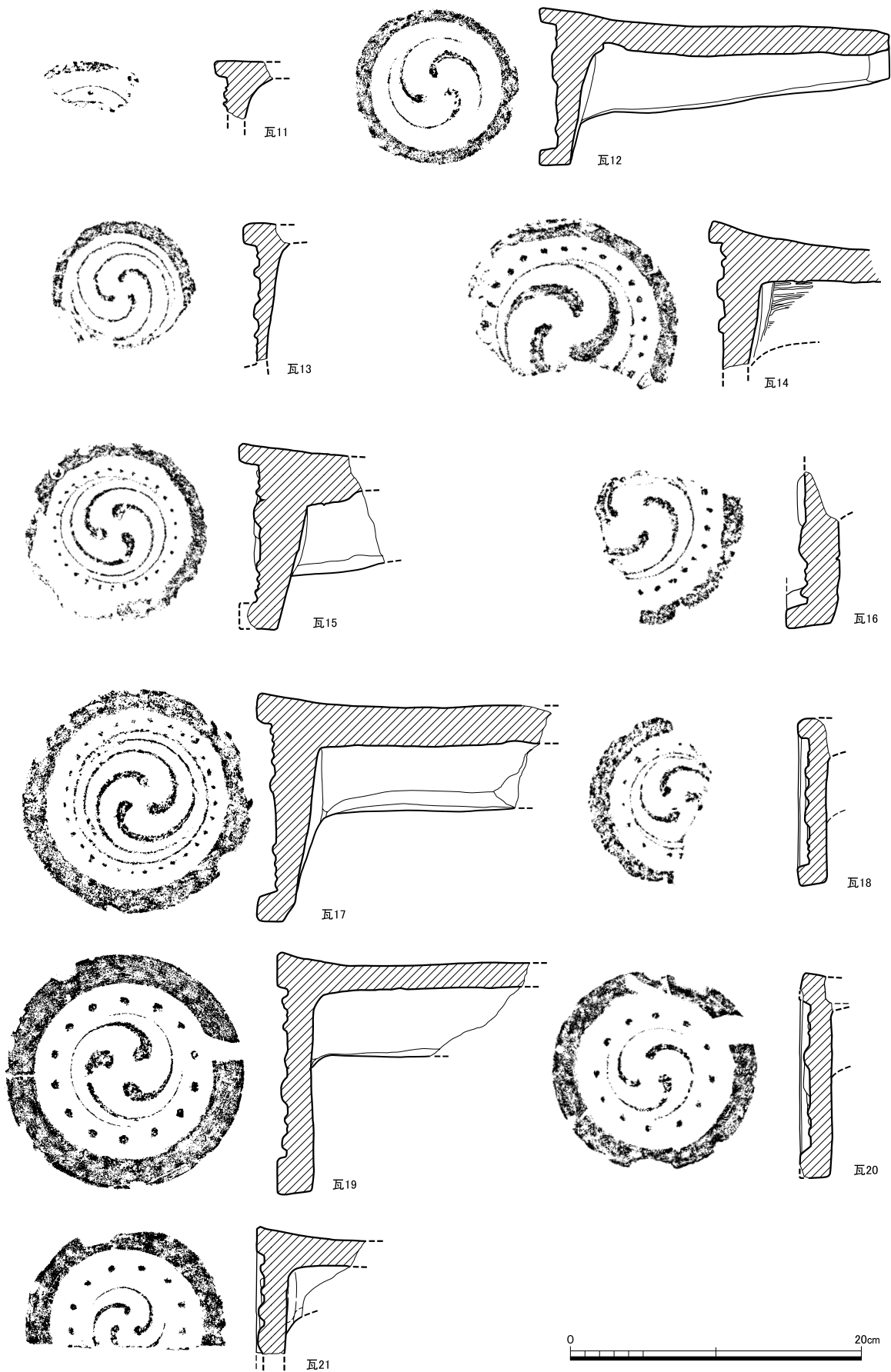


图30 軒丸瓦拓影·实测图2 (1:4)

瓦16は三巴文軒丸瓦。外区に大きな珠文を密に配し、内区に左巻きの巴文を配する。瓦当裏面はナデ、側面下半はヨコナデ。胎土は砂粒が混じり、やや硬質である。土坑298から出土した。

瓦17は三巴文軒丸瓦。外区に小さな珠文を密に配し、内区に右巻きの巴文を配する。磨滅が激しく調整は不明だが、丸瓦部凸面はタテナデ、瓦当裏面と側面下半はヨコナデか。胎土は砂粒が混じり、やや軟質である。井戸21から出土した。

瓦18は三巴文軒丸瓦。外区に珠文を配し、左巻きの巴文を配する。瓦当裏面と側面はヨコナデ。胎土は砂粒混じり、やや軟質である。5区東半の土坑から出土した。

瓦19～21は三巴文軒丸瓦。外区に珠文を配し、内区に瓦19・21は右巻き巴文、瓦20は左巻きの巴文を配する。瓦当面にキラコが見られる。瓦当裏面は丁寧なナデ、瓦当側面はヨコナデ、丸瓦部凸面はタテナデで仕上げる。瓦20の丸瓦剥離部を観察すると、接合時に丸瓦端部と瓦当裏面に刻みを入れて接合を強化している。胎土は砂粒が混じり、やや軟質である。瓦19は1区西半の近世土坑、瓦20は5区東半の近世土坑、瓦21は土坑298から出土した。

軒平瓦（図31～35、図版14・15、附表3）

瓦22～27・29～32・43～46は「大井寺」銘の均整唐草文軒平瓦。中心飾りの中に「寺」、左側第1主葉中に「井」、右側第1主葉中に「大」を逆字に置く。顎部はヨコケズリによって幅2～3cmの顎面を作りヨコナデ調整するのがほとんどであるが、瓦30は顎面が幅1cm前後で強いヨコナデで仕上げている。顎部から平瓦部凸面はタテケズリで、瓦22・29・31・44ではヘラケズリが及ばないところに布目が認められる。また、側面もタテケズリで、瓦23・25～27・31・44に凹面から連続する布目が残る。狭端面まで残る資料でも、瓦22・29・31の狭端面に凹面から連続する布目が残っており、これらの軒平瓦が布押圧技法で成形されていることを示している。さらに、瓦30と31では、布ではなく手のひらで直接押圧成形した痕跡も認められる。凹面には粗い布目が残るが、文様面端部をヨコヘラケズリで幅2～4cm幅で面取りし、後にナデ調整を施す。側端部も幅1.5cm前後の面取りを行う。左側第2主葉の唐草と上外区界線との間に右上から左下方向の範傷があり、右側第1主葉と左脇区の中央珠文にも範傷が認められる。確認できる資料はすべてこれらの範傷が確認できることから、瓦範は一つと考えられる。なお、瓦26では文様面周縁に、瓦範端部の当たりが観察できる。胎土は瓦22・24・29・31・45・46がやや軟質。瓦23・25～27・30・43・44は精良で硬質。これらの軒平瓦は一括資料としてまとまっており、22～27が土坑98、瓦29～32が土坑77からの一括資料である。また、瓦44は土坑160出土資料で軒丸瓦6と、瓦45・46は溝92出土資料で軒丸瓦3・4と共伴しており、単弁11弁蓮華文軒丸瓦と「大井寺」銘均整唐草文軒平瓦のセット関係が想定できる。生産地として、安井西裏瓦窯で中心部の破片が出土しており、²⁾同瓦窯で生産された可能性がある。

瓦28・40・41は均整唐草文軒平瓦。下外区の珠文の間に「西」銘を置く。「西」上下に小さな突起が見られる。顎部はヨコケズリによって顎面を作って曲線顎とし、顎面から平瓦部への曲線部をヨコナデ調整する。平瓦部凸面は、タテケズリ後にナデを施す。瓦28では平瓦部凸面の一部に布押圧力成形による布目が残っており、文様面から約10cmの位置に朱線がはしる。凹面には布目が残

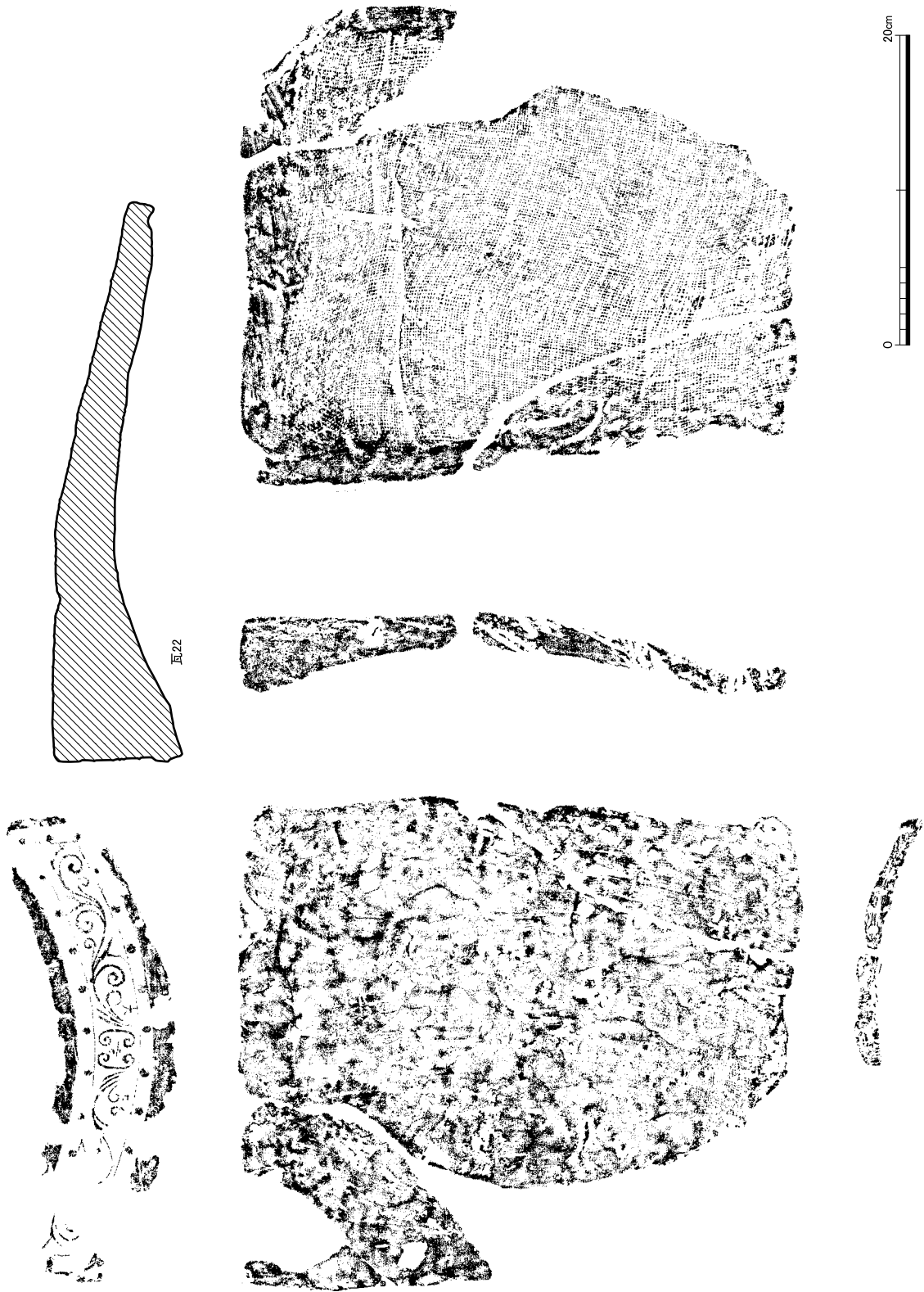


图31 土坑98出土軒平瓦拓影·实测图1 (1 : 4)

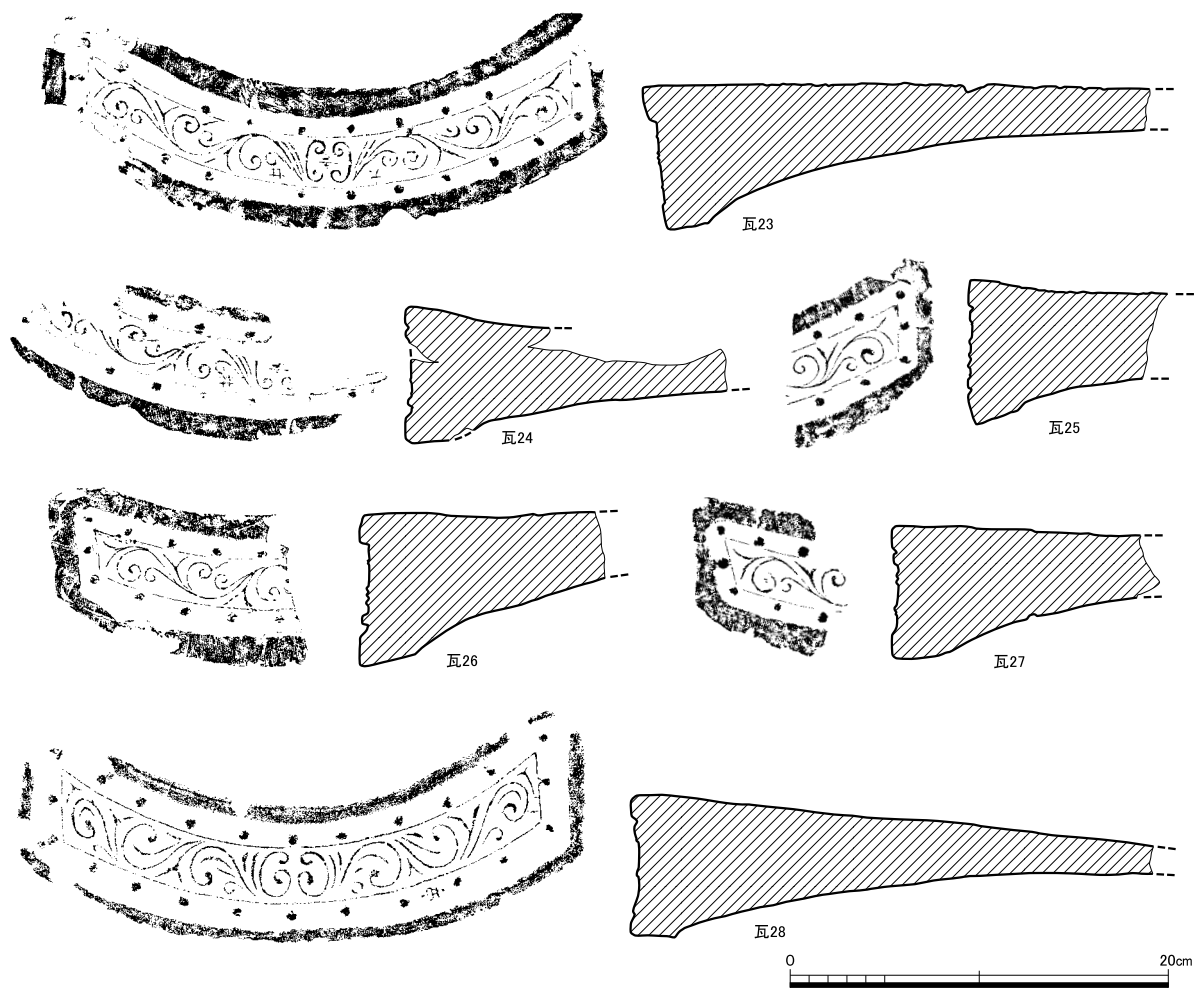


图32 土坑98出土軒平瓦拓影·实测图2 (1 : 4)

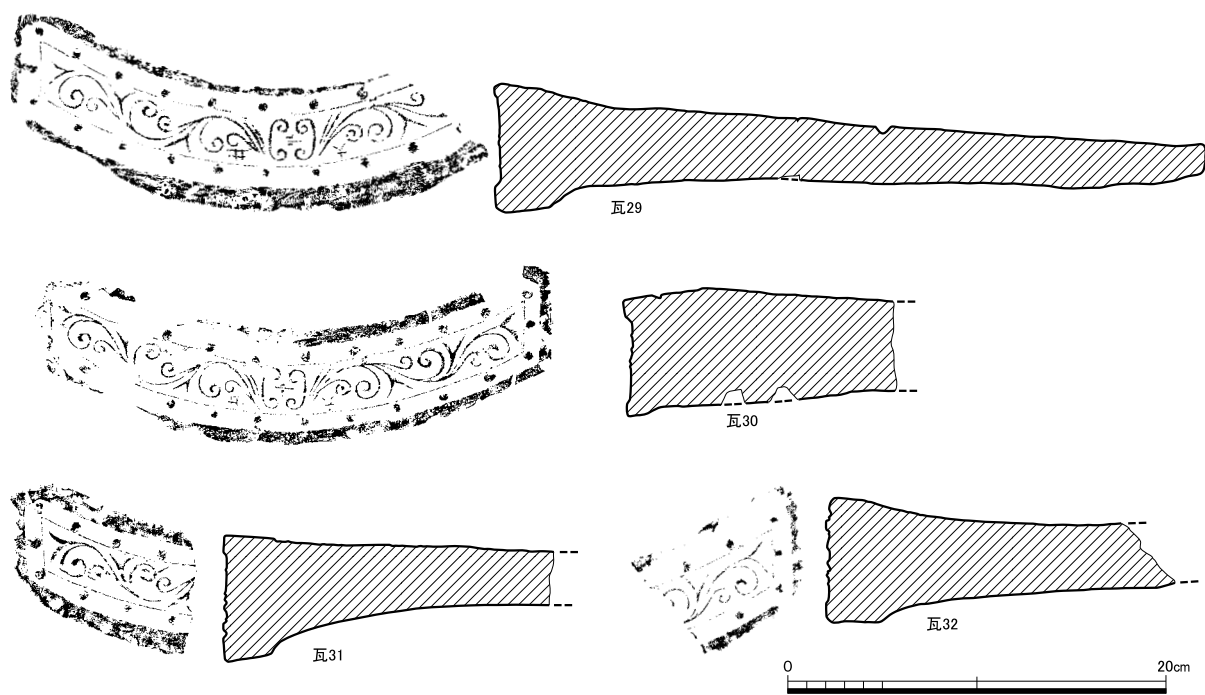


图33 土坑77出土軒平瓦拓影·实测图 (1 : 4)

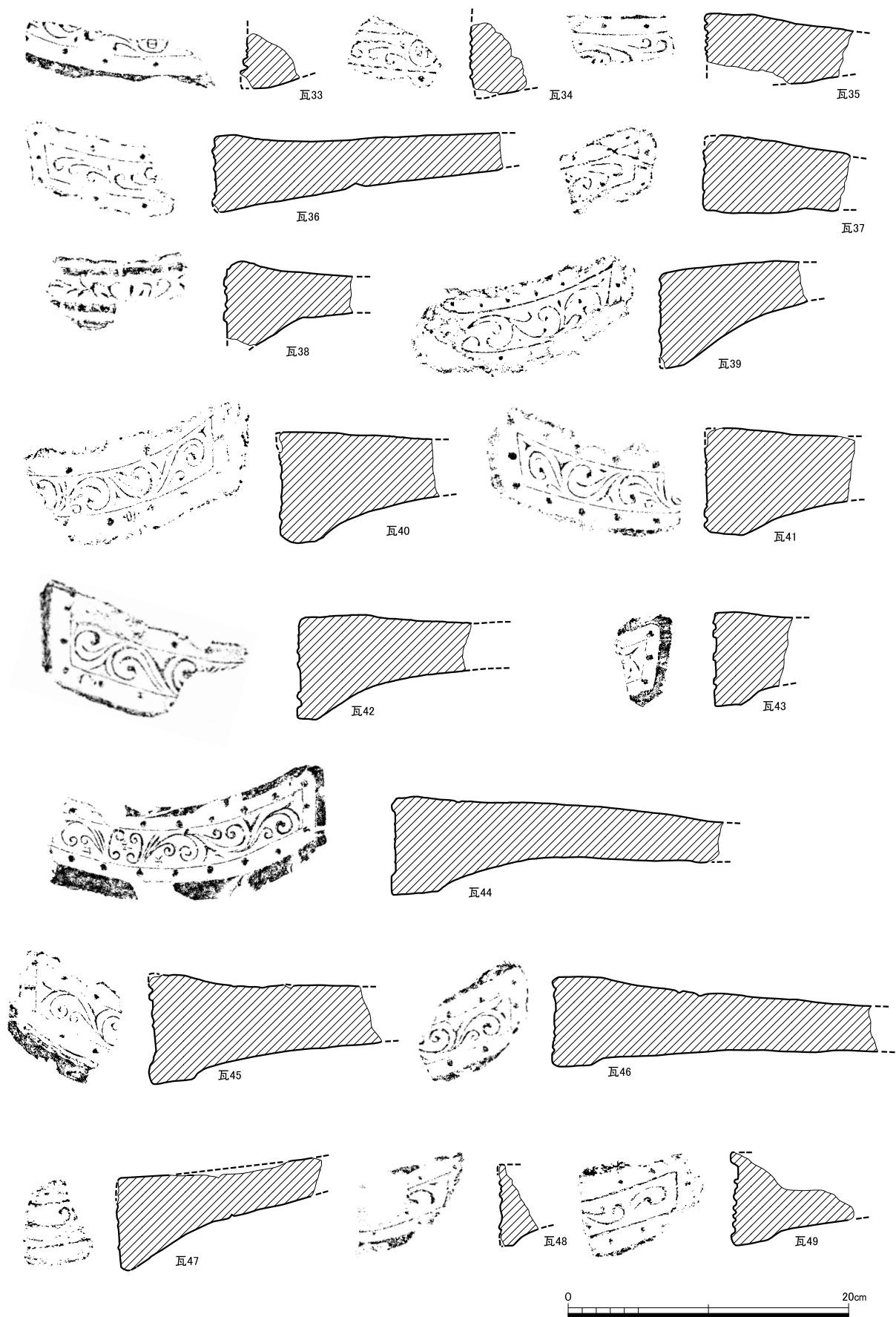


图34 軒平瓦拓影·实测图 (1 : 4)

るが、文様面側端部は幅8cm前後でヨコヘラケズリとヨコナデで調整する。側面はタテケズリである。胎土は砂粒が混じり、軟質である。瓦28は土坑98出土で、「大井寺」銘均整唐草文軒平瓦と供伴する。瓦41は溝92出土資料で、やはり単弁11弁蓮華文軒丸瓦と「大井寺」銘均整唐草文軒平瓦と供伴している。瓦40は1区西半の攪乱土坑から混入瓦として出土した。大山崎瓦窯産の軒平瓦である³⁾。

瓦33・48は「旨」銘均整唐草文軒平瓦。瓦33は中心飾りの圏線の中に、上の文字は欠損するが「旨」銘を置く。顎部はヨコケズリとヨコナデで幅約1.5cmの顎面をつくって曲線顎とし、曲線部はタテケズリ後にヨコナデを施す。瓦48は唐草の右端部で、顎面は約1cmと幅が狭く、曲線顎部には強いヨコナデを施す。長岡宮7722A型式と考えられる。胎土は砂粒が少ない、やや軟質である。瓦33は溝92から、瓦48は1区東半の攪乱土坑から混入瓦として出土した。

瓦34～37は「松」銘均整唐草文軒平瓦。中心飾りの圏線の中に「松」銘の裏字を置く。顎部は直線顎で、タテケズリ後にナデ。凹面には布目が残り、文様面側端部と側部はヘラケズリによって面取りする。瓦37の右角に斜め方向に範傷が見られる。胎土は砂粒が混じり、軟質である。瓦35～37は「松」銘唐草文の同文である。明確な遺構に伴う資料はなく、1区の攪乱土坑や2区の遺構検出中に混入瓦として出土した。

瓦38は唐草文軒平瓦。中心飾りに上向きC字形で、中に3葉を配す。顎部から平瓦部凸面にかけて粗い縄タタキ。凹面は布目で文様面端部はヨコヘラケズリで面取りする。胎土は砂粒が多く、硬質である。1区中央の土坑から混入瓦として出土した。

瓦39は均整唐草文軒平瓦。顎部はヨコケズリで顎面を作って曲線顎とし、曲線部はケズリ後ナデを施す。側面はタテケズリで、縄タタキが残る。凹面は文様面側に幅広くナデ調整を施す。西賀茂瓦窯産のNS202A型式である⁴⁾。胎土は砂粒が多い、やや硬質である。柱穴48の西に隣接して検出した土坑から混入瓦として出土した。

瓦42は唐草の巻込みが強い均整唐草文軒平瓦。顎部はヘラケズリによって幅1cm強の顎面を作って曲線顎とし、曲線部はナデ調整。凹面には布目が残り、文様面側端部にはヘラケズリで最大幅4.5cmの面取りを行う。また、側端部もタテケズリで幅2cmの面取りを施す。胎土は精良で、やや硬質である。7区の遺構検出中に出土した。

瓦47は唐草文軒平瓦。顎部はヘラケズリによって幅約1cmの顎面を作り、曲線顎とする。顎曲線部はヨコナデで、平瓦部凸面には縄タタキが残る。凹面は細かい布目で、文様面側端部はヘラケズリで幅約4cmの面取りを施す。側面はタテケズリ。文様は不明ながら長岡宮7731A型式と考えられる。胎土はやや粗く、砂粒が混じり、やや軟質である。5区の溝350から出土した。

瓦49は唐草文軒平瓦。顎部はヨコケズリで幅約2.5cmの顎面をつくり曲線顎とする。顎面は後にヨコナデを施し、曲線部はタテヘラケズリ後にナデ調整を施す。側面はタテケズリ。胎土はやや粗く、砂粒は少ない。軟質である。2区南東部の攪乱土坑から混入瓦として出土した。

瓦50～52は同範の均整唐草文軒平瓦。顎部は短い段顎で、文様部と平瓦部は斜めに接合する。顎面から平瓦部凸面にかけての境界部はヨコナデ、平瓦部凸面はタテナデ。凹面は瓦60には細か

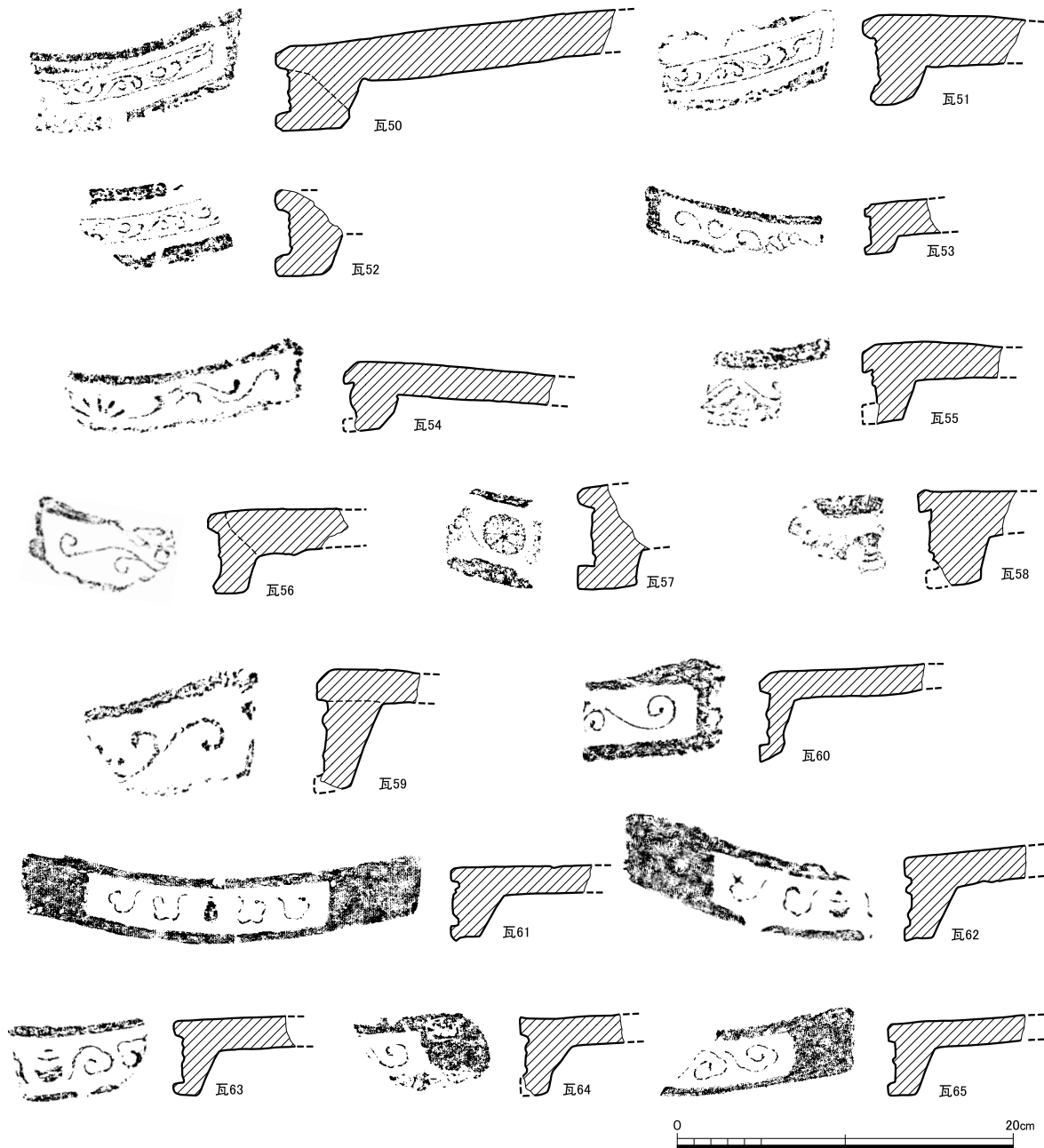


図35 軒平瓦拓影・実測図（1：4）

い布目が残りに、文様面端部と側端部を面取りする。瓦51は凹面全体をヨコナデ。側面はタテケズリ。胎土は砂粒や小石が混じり、硬質である。瓦51・52は軟質である。臨川寺所用瓦である。瓦50・52は1区の土坑から、瓦51は堀117下層から出土した。

瓦53は小型の菊花唐草文軒平瓦。中心飾りは半裁菊花文を凸線で表し、唐草は中心飾りの下部からのびて、左右に3回転する。唐草はそれぞれ独立する。顎部は短い段顎でヨコナデ、平瓦部凸面はタテナデ調整。顎部凸面と平瓦部凸面の側端部に調整台の痕跡が残る。凹面は丁寧なナデ調整で、文様面端部と側端部を面取りする。側面も丁寧なナデ調整。瓦当面に離れ砂が見られる。胎土は砂粒が少なく、精良で硬質である。1区中央の土坑から出土した。

瓦54は菊花唐草文軒平瓦。中心飾りは5弁の半裁菊花文で、独立した唐草が4回転する。顎部は

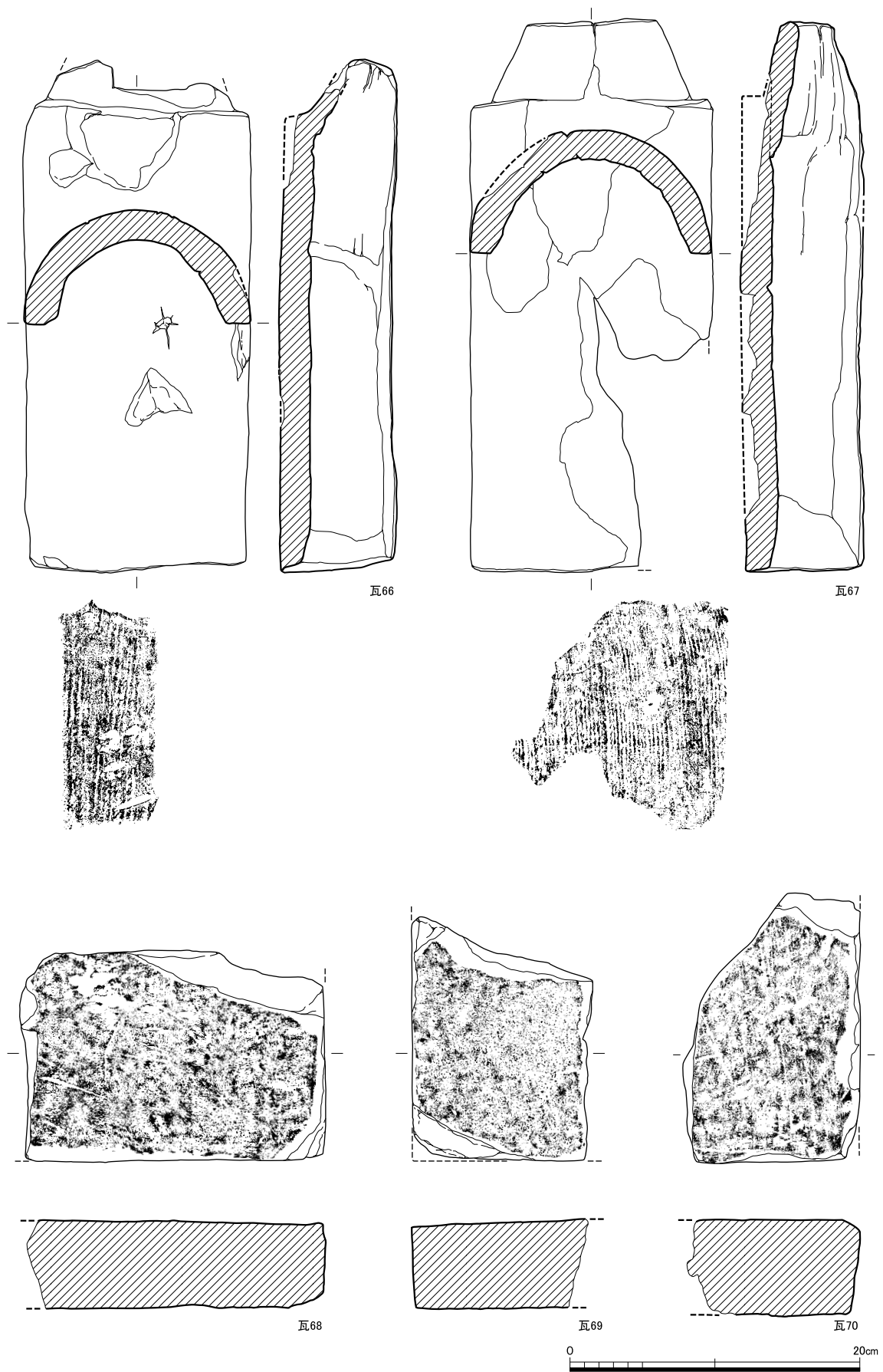


图36 土坑98出土丸瓦·埴拓影·实测图 (1 : 4)

短い段顎でやや丸みを帯びる。顎部調整はヨコナデ、平瓦部凸面はタテナデ。凹面は丁寧なナデ調整で、文様面端部と側端部を面取りする。胎土は小石が混じるが砂粒は少ない、やや軟質である。池162から出土した。

瓦55は唐草文軒平瓦。顎部は短い段顎でヨコナデ、平瓦部凸面はタテナデ。凹面はヨコナデ調整で、文様面端部を面取りする。側面はナデ調整。胎土は砂粒が混じり、やや軟質である。堀86から出土した。

瓦56は唐草文軒平瓦。唐草の巻きは強い。顎部は短い段顎で、文様部と平瓦部は斜めに接合する。顎部調整はヨコナデ、とくに平瓦部凸面との境界部は強いナデを施す。平瓦部凸面はタテナデ。凹面はタテ方向とヨコ方向に粗くナデを施すが細かい布目が残る。側面はタテケズリを施す。瓦当面に離れ砂が付着する。胎土は砂粒が混じり、やや硬質である。7区の遺構検出中に出土した。

瓦57・58は円形文軒平瓦。瓦57は菊花状を呈し、唐草文を配する。円形文は「天龍寺」銘の日輪月輪部分である。顎部は短い段顎でヨコナデ、凹面はナデ調整を施すが、瓦58の凹面には細かい布目が残る。胎土は砂粒が多く、やや硬質である。瓦57は2区南東の土坑から、瓦58は1区中央の土坑から出土した。

瓦59・60は均整唐草文軒平瓦。いずれも平瓦凸面端部に文様部を貼り付けたものである。顎部は短い段顎でヨコナデ調整。平瓦部凸面はタテナデ。凹面は丁寧なナデで、文様面端部に面取りを施す。胎土は砂粒が少なく、やや軟質である。瓦59は土坑298、瓦60は堀117から出土した。

瓦61～65は中心飾りが宝珠文の雲形唐草文で、瓦61は隅切瓦、瓦62は軒棧瓦である。瓦64の右側の周縁に「^(帯カ)九」の刻印が捺される。また、瓦64・65の文様面の周縁右上端を面取りする。顎部は短い段顎でヨコナデ調整。平瓦部凸面はナデ。凹面は丁寧なナデで、瓦61・63は文様面端部に面取りを施す。胎土は砂粒が少なく、硬質である。瓦61・62・64・65は池162の南に接する土坑から、瓦63は1区の第1面清掃中に出土した。

丸瓦・塼 (図36、図版16、附表4)

瓦66・67は丸瓦である。凸面は縄目タタキ後にナデ調整、玉縁はナデ調整。凹面は粗い布目で、端部と側部をヘラケズリで面取りする。側面と端面もヘラケズリ調整。胎土は砂粒が少なく、やや軟質である。瓦68～70は箱型に粘土を詰め込んで成形した方形塼である。上面は縁側をナデ調整、下面は未調整、側面はヘラケズリ調整である。胎土は微砂粒をやや含み、硬質である。これら丸瓦

と塼は土坑98から一括して出土した。

鬼瓦 (図37、図版16、附表4)

瓦71は鬼瓦の右上部分である。鼻や牙は欠損する。胎土はやや粗く、軟質である。堀117から出土した。

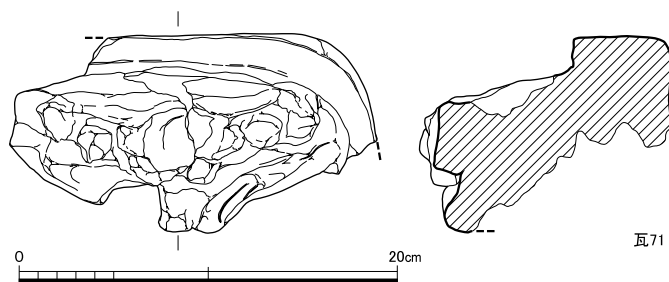


図37 鬼瓦実測図 (1:4)

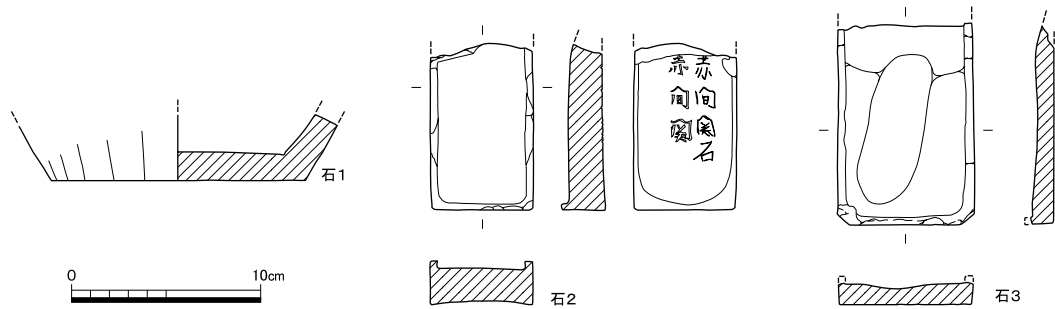


図38 石製品実測図（1：4）

（4）石製品（図38、図版16、付表5）

石鍋（石1） 鍋の底部、体部は直線的に外向する。土坑118から出土した。

硯（石2・3） 石2は長さ8.7cm以上、幅5.4cm、厚さ2.3cmの長方形。石材は赤褐色の輝緑凝灰岩（赤色頁岩）である。裏面に「赤間関」・「赤間関石」銘の線刻がある。赤間石とは山口県宇部市産である。土坑298の東を攪乱する土坑から出土した。江戸時代後期。

石3は長さ10.6cm以上、幅7.1cm、厚さ1.2cm以上の長方形。石材は暗灰色の頁岩である。石敷315から出土した。江戸時代後期。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 2) 田中利津子・辻 裕司・大立目 一「平安京右京二条四坊・安井西裏瓦窯跡」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 3) 大山崎町教育委員会『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第31集 2005年
- 4) 財団法人古代学協会『西賀茂瓦窯跡』平安京跡研究調査報告第4輯 1978年
- 5) 財団法人京都市埋蔵文化財研究所『臨川寺旧境内遺跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告Ⅳ 1978年

5. まとめ

今回の調査の成果は平安時代前期の溝、瓦の廃棄土坑と室町時代（応仁の乱前後）の堀を検出したことである。

平安時代の遺構 平安時代前期の嵯峨・嵐山の景観を表す「山城国葛野郡班田図」（図39）の社里二七・二八・三三・三四坪に檀林寺の記載がある。檀林寺は嵯峨天皇の皇后橘嘉智子が承和三年（836）頃に創建した寺で、調査地は檀林寺推定地付近に位置している。

検出した東西溝92と350が檀林寺跡に関連するのか、葛野郡条里の遺構なのかは明らかにすることができなかったが、調査地から「大井寺」銘の軒瓦を含む平安時代の瓦が大量に出土していることから、大井寺もしくは檀林寺に関連する遺構と考えられる。このような遺構や遺物は、これまで不明であった大井寺と檀林寺の解明につながる貴重な資料となる。

室町時代の遺構 検出した室町時代の堀の新旧関係は、最も古いのが堀119、次いで堀117、堀90、堀86となる。時期は出土遺物からⅨ期古～中（15世紀中頃）からⅨ期新（15世紀末頃）で応仁の乱の前後に比定される。この時期に天龍寺は文安四年（1447）、応仁二年（1468）に被災しており、頻繁に掘削と埋没を繰り返したことが窺われる。

調査地の位置は、天龍寺所蔵の室町時代前期の「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図」（図41）と

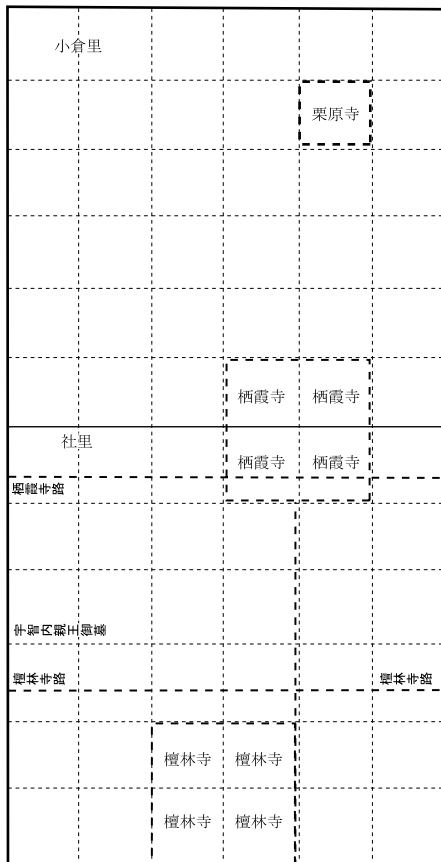


図39 「山城国葛野郡班田図」
（原図を元にトレース、一部改変）

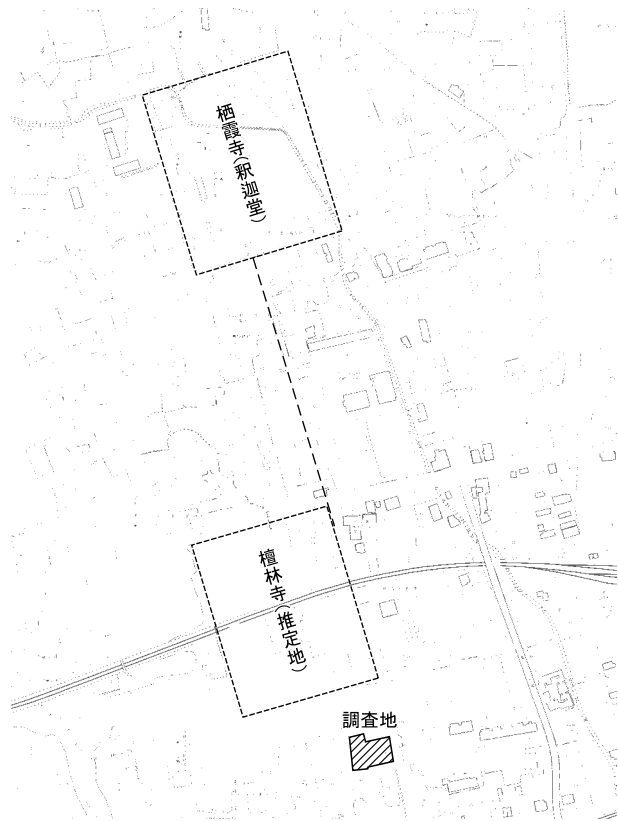


図40 「檀林寺推定図」

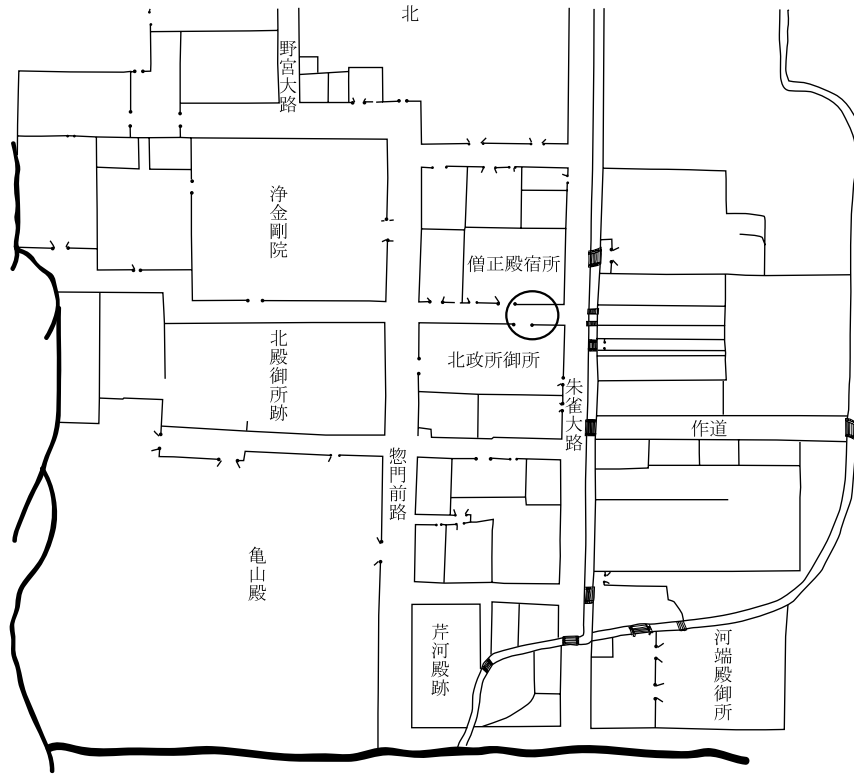


図41 「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷敷地指図」(原図を元にトレース、一部改変)

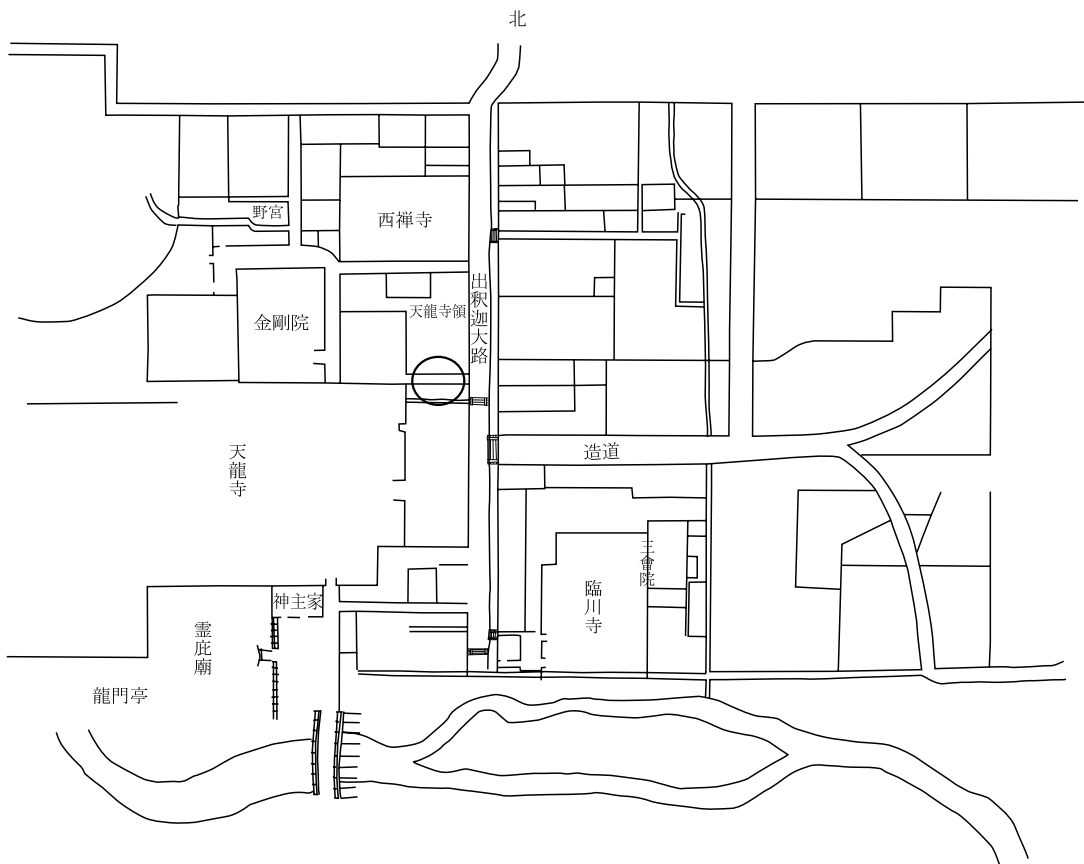


図42 「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」(原図を元にトレース、一部改変)

貞和三年（1347）の「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」（図42）をみると、「作道」（「造道」）から朱雀大路（「出釈迦大路」）を北へ上った西側の一筋目の東西道付近（図41・42の○印）である。図41では北側は僧正殿宿所、南側は二位入道跡・北政所御所と記載される。図42では北側に西禅寺と天龍寺領が記載されている。東西方向の堀86と堀119は、これらの古図に描かれている土地区画の遺構と考えられる。しかし、堀90・117・404などは古図に対応する区画が描かれておらず、小区画や土地利用の変遷があったと考えられる。

調査地周辺での調査例は少なく、検出した遺構は一部でしかない。天龍寺や檀林寺を含む「嵐山」の全体像を解明するには、これからも調査を継続していく必要がある。

付表1 土器一覧表

番号	器種	器形	遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
1	弥生土器	鉢	堀119				外 10YR8/3浅黄色 内 7.5GY3/1暗緑灰色	
2	土師器	皿A	溝350	13.8	1.4		2.5Y7/3浅黄色	
3	土師器	皿A	溝350	14.1	1.8		7.5YR7/6橙色	
4	土師器	皿A	溝350	15.2	2.0		7.5YR7/6橙色	
5	土師器	椀A	溝350	13.1	3.2		7.5YR7/6橙色	
6	土師器	杯A	溝350	15.6	2.9		7.5YR7/6橙色	
7	土師器	杯A	溝350	16.8	3.4		10YR7/4にぶい黄橙色	
8	土師器	杯A	溝350	15.0	2.4		10YR7/4にぶい黄橙色	
9	土師器	杯A	溝350	16.0	2.5		7.5YR7/6橙色	
10	土師器	杯B	溝350			7.8	7.5YR8/4浅黄橙色	
11	須恵器	杯B	溝350			10.0	5Y6/1灰色	
12	須恵器	杯B	溝350			9.1	N6/0灰色	
13	土師器	甕	溝350	26.0			7.5YR7/4にぶい橙色	
14	土師器	椀A	溝92	13.9	3.5		7.5YR7/6橙色	
15	須恵器	杯A	溝92			8.0	N6/灰色	
16	黒色土器	杯	土坑98				N3/暗灰色	
17	土師器	高杯	土坑98				7.5YR8/4浅黄橙色	脚部
18	土師器	台付皿	土取穴131	18.0	2.8	12.5	7.5YR8/4浅黄橙色	
19	緑釉陶器	輪花椀	土取穴131	18.2	5.6	8.1	2.5Y8/1灰白色 釉 5Y7/4浅黄色	猿投産
20	緑釉陶器	杯	土坑290			7.0	2.5Y7/2灰黄色 釉 5Y8/2灰色	陰刻花文、猿投産
21	緑釉陶器	皿	土坑167	13.8	2.7	6.4	10YR8/2灰色 釉 5Y7/3浅黄色	京都産
22	緑釉陶器	鉢	土坑160			7.6	2.5Y6/1黄灰色 釉 5Y7/4浅黄色	金属器写し、猿投産
23	緑釉陶器	皿	土坑160			9.0	2.5Y8/2淡黄色 釉 5Y7/3浅黄色	京都産
24	緑釉陶器	椀	土坑160			8.0	5Y6/1灰色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	猿投産
25	緑釉陶器	椀	土坑160	18.0			2.5Y6/2灰黄色 釉 2.5Y7/4浅黄色	京都産
26	緑釉陶器	椀	土坑160	19.0			2.5Y6/3にぶい黄色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	京都産
27	緑釉陶器	鉄鉢	土坑160	15.0			5Y7/4浅黄色 釉 10YR5/4にぶい黄褐色	京都産
28	土師器	甕	土坑160	26.4			7.5YR7/6橙色	
29	土師器	甕	土坑160	26.8			7.5YR7/6橙色	
30	土師器	皿A	土坑243	15.6	1.6		10YR8/6黄橙色	
31	土師器	高杯	土坑243	28.3			5YR7/6橙色	杯部
32	土師器	高杯	土坑243				7.5YR8/3浅黄橙色	脚部
33	緑釉陶器	皿	土坑243			6.7	2.5Y7/2灰黄色 釉 10YR7/2灰白色	二次焼成受ける、猿投産
34	土師器	皿A	土坑377	13.0	1.1		7.5Y7/6橙色	
35	土師器	皿A	土坑377	13.4	1.5		7.5Y8/4浅黄橙色	
36	土師器	杯A	土坑377	18.8			5Y7/6橙色	
37	土師器	皿S	土坑275	13.0	2.9		7.5YR7/4にぶい橙色	
38	土師器	皿Ac	土坑118	4.0	1.2		10YR8/2灰白色	
39	土師器	皿Sh	土坑118	6.5	1.8		7.5YR7/4にぶい橙色	
40	土師器	皿N	土坑118	12.0	2.0		10YR8/3浅黄橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
41	土師器	皿S	土坑118	12.0	2.5		10YR8/3浅黄橙色	
42	輸入白磁	瓶	土坑118				7.5Y8/1灰白色 釉 5G7/1明緑灰色	
43	輸入青磁	椀	土坑118		3.5	4.8	5Y8/1灰白色 釉 5GY6/1オリーブ灰色	
44	土師器	皿N	堀119	8.0	1.8		10YR8/2灰白色	
45	土師器	皿S	堀119	11.2			2.5Y8/3浅黄色	
46	輸入青磁	椀	堀119	16.1			5Y7/1灰白色 釉 5GY7/1明オリーブ灰色	
47	須恵器	鉢	堀119	27.2			N6/灰色	
48	信楽	播鉢	堀119	30.0			10YR8/2灰白色	
49	瓦器	羽釜	堀119	20.3			7.5YR7/4にぶい橙色	
50	瓦器	風炉	堀119	35.4			N3/暗灰色	大和産
51	土師器	皿S	堀117	11.4	2.4		7.5YR8/3浅黄橙色	
52	土師器	皿S	堀117	12.8	2.2		10YR8/2灰白色	
53	土師器	皿S	堀117	13.8	2.9		10YR8/3浅黄橙色	
54	輸入白磁	口禿皿	堀117	9.4	2.7	7.6	N8/灰白色 釉)10Y7/1灰白色	
55	施釉陶器	天目茶椀	堀117	11.8			2.5Y8/1灰白色 釉 N2/黒	瀬戸
56	土師器	皿N	堀90	10.0	2.0		7.5Y7/4にぶい橙色	在地系
57	土師器	皿Sh	堀90	7.0	1.7		7.5Y8/3浅黄橙色	
58	土師器	皿Sh	堀90	7.0	1.7		10YR8/3浅黄橙色	
59	土師器	皿Sh	堀90	7.3	1.7		10YR8/2灰色	
60	土師器	皿Sh	堀90	7.3	1.7		10YR8/3浅黄橙色	
61	土師器	皿Sh	堀90	7.4	1.6		7.5Y8/4浅黄橙色	
62	土師器	皿Sh	堀90	7.4	1.7		7.5Y8/3浅黄橙色	
63	土師器	皿Sh	堀90	7.4	1.8		10YR8/3浅黄橙色	
64	土師器	皿Sh	堀90	7.4	2.0		7.5Y8/3浅黄橙色	
65	土師器	皿Sh	堀90	7.8	1.8		10YR8/3浅黄橙色	
66	土師器	皿Sh	堀90	8.4	2.0		10YR8/3浅黄橙色	
67	土師器	皿S	堀90	10.6	2.2		10YR7/2にぶい黄橙色	
68	土師器	皿S	堀90	11.0	2.6		7.5YR8/3浅黄橙色	
69	土師器	皿S	堀90	11.6	2.4		7.5YR8/3浅黄橙色	
70	土師器	皿S	堀90	11.9	2.1		7.5YR8/3浅黄橙色	
71	土師器	皿S	堀90	12.0	2.4		10YR8/3浅黄橙色	
72	土師器	皿S	堀90	12.0	2.5		7.5YR8/4浅黄橙色	
73	土師器	皿S	堀90	12.0	2.3		7.5YR8/2灰白色	
74	土師器	皿S	堀90	12.2	2.5		2.5Y8/2灰白色	
75	土師器	皿S	堀90	12.2	2.6		10YR8/3浅黄橙色	
76	土師器	皿S	堀90	12.4	2.7		10YR8/3浅黄橙色	
77	土師器	皿S	堀90	12.4	2.6		7.5YR8/4浅黄橙色	
78	土師器	皿S	堀90	12.8	2.2		10YR8/3浅黄橙色	
79	土師器	皿S	堀90	12.8	2.7		7.5YR8/4浅黄橙色	
80	土師器	皿S	堀90	13.2	2.9		10YR8/4浅黄橙色	
81	土師器	皿S	堀90	13.2	2.4		10YR8/3浅黄橙色	
82	土師器	皿S	堀90	14.0	3.0		10YR8/3浅黄橙色	
83	土師器	皿S	堀90	14.2	2.8		10YR8/3浅黄橙色	
84	土師器	皿S	堀90	14.4	3.1		10YR8/3浅黄橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
85	土師器	皿S	堀90	16.2	2.7		10YR8/3浅黄橙色	
86	輸入白磁	椀	堀90	10.9	4.4	3.0	N7/灰白色 釉 N8/灰白色	
87	輸入白磁	平茶椀	堀90	18.55	6.9		N9/白色 釉 10Y7/1灰白色	
88	施釉陶器	天目茶椀	堀90	12.5			2.5Y8/2灰白色 釉 7.5YR4/3褐色	瀬戸
89	施釉陶器	平茶椀	堀90	18.0	6.8	5.3	2.5Y8/1灰白色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	瀬戸
90	施釉陶器	平茶椀	堀90	18.1	7.3	4.8	2.5Y8/2灰白色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	瀬戸
91	施釉陶器	花瓶	堀90	14.9			2.5Y8/2灰白色 釉 10Y6/2オリーブ灰色	瀬戸
92	施釉陶器	卸目皿	堀90	14.4	3.1	7.7	N7/灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	瀬戸
93	瓦器	鍋	堀90	27.0	9.5		2.5Y7/2灰黄色	
94	瓦器	羽釜	堀90	20.2	13.0		2.5Y5/1灰黄色	
95	瓦器	羽釜	堀90	28.8			2.5Y8/3浅黄色	
96	土師器	皿Sh	堀86	6.4	1.5		7.5YR7/4にぶい橙色	
97	土師器	皿Sh	堀86	6.5	1.5		10YR8/3浅黄橙色	
98	土師器	皿S	堀86	8.4	1.65		10YR8/3浅黄橙色	
99	土師器	皿S	堀86	9.0	2.0		10YR5/1褐灰色	
100	土師器	皿S	堀86	10.8	2.2		7.5YR8/4浅黄橙色	
101	土師器	皿S	堀86	11.6	2.25		7.5YR7/6橙色	
102	土師器	皿S	堀86	11.8	2.2		5YR8/4淡橙色	
103	土師器	皿S	堀86	12.8	2.1		10YR7/3にぶい黄橙色	
104	土師器	皿S	堀86	12.9	2.1		7.5YR7/6橙色	
105	土師器	皿S	堀86	13.8	2.75		7.5YR7/4にぶい橙色	
106	土師器	皿S	堀86	14.0	3.0		10YR8/3浅黄橙色	
107	土師器	皿S	堀86	14.2	2.6		7.5YR7/4にぶい橙色	
108	土師器	皿S	堀86	14.8	3.0		10YR8/4浅黄橙色	
109	土師器	皿S	堀86	15.8	2.6		7.5YR7/3にぶい橙色	
110	土師器	皿S	堀86	16.8	2.6		7.5YR7/4にぶい橙色	
111	瓦器	火鉢	堀86	46.8			N3/0暗灰色	大和産
112	土師器	皿Sh	土取穴131	6.8	1.8		7.5YR7/6橙色	
113	土師器	皿S	土取穴131	8.8	2.0		7.5YR7/6橙色	
114	土師器	皿S	土取穴131	13.8	2.0		7.5YR8/4浅黄橙色	
115	土師器	皿S	土取穴131	14.4	2.3		7.5YR8/3浅黄橙色	
116	土師器	皿S	土取穴131	15.2	2.0		10YR8/4浅黄橙色	
117	土師器	皿S	土取穴131	15.4	2.3		7.5Y8/6浅黄橙色	
118	輸入青磁	椀	土取穴131	16.5	5.4	5.4	10YR8/2灰白色 釉 5GY7/1暗オリーブ灰色	
119	土師器	皿Sb	井戸21	9.4	2.0		10YR7/3にぶい黄橙色	
120	土師器	皿Sb	井戸21	9.4	1.9		2.5YR6/4にぶい橙色	
121	土師器	皿Sb	井戸21	9.5	2.0		7.5Y6/4にぶい橙色	
122	土師器	皿Sb	井戸21	9.5	2.1		10YR7/3にぶい黄橙色	
123	土師器	皿Sb	井戸21	9.5	2.0		7.5YR7/3にぶい橙色	
124	土師器	皿Sb	井戸21	9.6	2.0		7.5YR7/4にぶい橙色	
125	土師器	皿Sb	井戸21	9.7	2.2		7.5YR6/4にぶい橙色	
126	土師器	皿Sb	井戸21	9.7	2.0		7.5YR7/4にぶい橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
127	土師器	皿Sb	井戸21	9.8	2.1		5YR6/3にぶい橙色	
128	土師器	皿Sb	井戸21	9.6	2.0		10YR7/4にぶい黄褐色	
129	土師器	皿Sb	井戸21	9.8	2.1		7.5YR7/3にぶい橙色	
130	土師器	皿Sb	井戸21	9.6	2.1		7.5Y7/4にぶい橙色	
131	土師器	皿Sb	井戸21	9.7	2.0		7.5Y7/6橙色	
132	土師器	皿S	井戸21	10.3	2.1		7.5YR7/4にぶい橙色	
133	土師器	皿S	井戸21	10.4	2.3		5YR7/4にぶい橙色	
134	土師器	皿S	井戸21	10.4	2.2		7.5YR7/4にぶい橙色	
135	土師器	皿S	井戸21	10.5	2.0		7.5YR7/4にぶい橙色	
136	土師器	皿S	井戸21	10.7	2.0		7.5YR7/4にぶい橙色	
137	土師器	皿S	井戸21	10.7	2.3		7.5YR7/4にぶい橙色	
138	土師器	皿S	井戸21	10.6	2.2		10YR7/3にぶい黄橙色	
139	土師器	皿S	井戸21	10.6	2.3		10YR8/4浅黄橙色	
140	土師器	皿S	井戸21	10.7	2.0		10YR7/4にぶい黄橙色	
141	土師器	皿S	井戸21	10.9	2.2		7.5YR7/3にぶい橙色	
142	土師器	皿S	井戸21	11.0	2.1		7.5YR7/6橙色	
143	土師器	皿S	井戸21	11.1	2.0		10YR7/4にぶい黄橙色	
144	土師器	皿S	井戸21	11.3	2.1		7.5YR7/3にぶい橙色	
145	土師器	皿S	井戸21	12.0	2.3		7.5YR7/3にぶい橙色	
146	土師器	皿S	井戸21	11.9	2.1		7.5YR7/4にぶい橙色	
147	土師器	皿S	井戸21	12.1	2.0		7.5YR7/3にぶい橙色	
148	土師器	皿S	井戸21	12.0	2.3		10YR7/2にぶい黄橙色	
149	土師器	皿S	井戸21	12.3	2.2		5YR6/3にぶい橙色	
150	土師器	皿S	井戸21	12.3	2.2		7.5YR7/3にぶい橙色	
151	土師器	皿S	井戸21	12.6	2.4		7.5YR7/4にぶい橙色	
152	土師器	皿S	井戸21	12.6	2.0		5YR6/3にぶい橙色	
153	土師器	皿S	井戸21	13.1	2.4		5YR7/4にぶい橙色	
154	土師器	皿S	井戸21	13.9	2.6		5YR6/3にぶい橙色	
155	土師器	皿N	井戸21	5.3	1.1		7.5Y7/4にぶい橙色	
156	土師器	皿N	井戸21	5.8	1.2		8.5Y8/4浅黄橙色	
157	土師器	皿N	井戸21	6.3	1.5		5YR7/4にぶい橙色	
158	土師器	皿N	井戸21	7.0	1.7		7.5YR6/4にぶい橙色	
159	土師器	皿N	井戸21	7.5	2.0		7.5Y6/4にぶい橙色	
160	土師器	皿N	井戸21	7.7	1.4		5YR7/6橙色	
161	土師器	焼塩壺身	井戸21	3.4			7.5YR7/3にぶい橙色	
162	瓦器	香炉	井戸21	11.2	5.4		7.5YR8/3浅黄橙色	大和産
163	施釉陶器	皿	井戸21	9.9	2.4	4.2	5Y8/2灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	瀬戸
164	施釉陶器	皿	井戸21	10.2	2.4	5.6	5Y8/2灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	瀬戸
165	施釉陶器	皿	井戸21	10.7	2.6	5.6	5Y8/1灰白色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	瀬戸
166	施釉陶器	皿	井戸21	10.4	2.7	6.0	N7/灰白色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	瀬戸
167	施釉陶器	皿	井戸21	10.8	2.0	6.0	5Y8/2灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	瀬戸
168	施釉陶器	椀	井戸21	11.6	5.8	5.2	5Y8/1灰白色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	瀬戸
169	施釉陶器	天目茶椀	井戸21	11.4			2.5GY明オリーブ灰色 釉 10Y5/2オリーブ灰色	瀬戸

番号	器種	器形	遺構名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
170	施釉陶器	皿	井戸21	10.6	2.5	6.8	2.5GY明オリーブ灰色 釉 10Y6/2オリーブ灰色と 5Y2/2オリーブ黒色が混	瀬戸
171	施釉陶器	皿	井戸21	10.8	2.8	6.0	7.5Y8/2白灰色 釉 5Y6/4オリーブ黄色と 5Y2/2オリーブ黒色が混	瀬戸
172	焼締陶器	壺	井戸21			5	5Y5/2灰褐色	備前
173	焼締陶器	播鉢	井戸21	33.8	15.0		2.5GY7/1明オリーブ灰色 釉 5YR4/3にぶい赤褐色	丹波
174	焼締陶器	播鉢	井戸21	29.8			5YR6/6橙色	信楽
175	輸入染付	椀	井戸21				2.5GY8/1灰白色 釉 N8/灰白色	
176	輸入染付	皿	井戸21			9.0	2.5GY7/1明オリーブ灰色 釉 N8/灰白色	
177	輸入白磁	皿	井戸21	11.3	2.1	6.2	5GY8/1灰白色 釉 5GY7/1明オリーブ灰色	
178	土師器	皿Sb	堀404	9.6	2.0		7.5YR7/6橙色	
179	土師器	皿Sb	堀404	9.8	2.0		7.5YR7/6橙色	
180	土師器	皿S	堀404	9.9	2.4		7.5YR7/6橙色	
181	土師器	皿S	堀404	10.8	1.9		2.5Y8/2灰白色	
182	施釉陶器	小椀	堀404	6.4	3.2	2.2	7.5YR6/4にぶい橙色 釉 10YR3/4暗褐色	瀬戸美濃、鉄釉
183	施釉陶器	皿	堀404	11.7	3.5	5.0	10YR7/4にぶい黄橙色 釉 5YR6/3オリーブ黄色	唐津
184	土師器	皿Sb	土坑298	8.5	1.7		7.5YR7/4にぶい橙色	
185	土師器	皿Sb	土坑298	8.5	1.8		7.5YR7/6橙色	
186	土師器	皿Sb	土坑298	8.9	1.7		7.5YR8/6浅黄橙色	
187	土師器	皿Sb	土坑298	8.9	1.8		10YR7/4にぶい黄橙色	
188	土師器	皿Sb	土坑298	9.0	1.8		7.5YR8/6浅黄橙色	
189	土師器	皿S	土坑298	8.4	2.0		7.5YR7/6橙色	
190	土師器	皿S	土坑298	9.4	2.0		7.5YR7/6橙色	
191	土師器	皿S	土坑298	9.5	2.1		7.5YR7/6橙色	
192	土師器	皿S	土坑298	10.0	2.0		7.5Y7/6橙色	
193	土師器	皿S	土坑298	10.4	1.8		7.5YR7/6橙色	
194	土師器	皿Nr	土坑298	5.4	1.6		7.5YR7/6橙色	
195	土師器	皿Nr	土坑298	5.5	1.4		5YR7/6橙色	
196	土師器	皿Nr	土坑298	5.7	1.4		7.5YR7/6橙色	
197	土師器	皿Nr	土坑298	5.8	1.5		7.5YR7/6橙色	
198	土師器	塩壺身	土坑298	3.8	6.2	4.4	7.5YR7/4にぶい橙色	
199	土師器	塩壺身	土坑298	4.0	7.7	3.4	7.5YR7/6橙色	
200	施釉陶器	椀	土坑298	9.8	6.2	5.0	7.5YR7/4にぶい橙色 釉 10YR5/3にぶい黄褐色	肥前
201	軟質陶器	鬘付容器	土坑298	長12.0 短5.2	3.2		10YR8/2灰白色 釉 10YR6/6明黄褐色	
202	輸入染付	鉢	土坑298	12.7	4.1	6.2	釉 呉須 N8/灰白色	
203	輸入染付	盤	土坑298	25.1	9.1	13.6	釉 呉須 N8/灰白色	

付表2 軒丸瓦一覧表

番号	文様	計測値 単位(cm)					胎土の色調	出土地点	産地・窯	時代	備考
		瓦当直径	中房径	内区径	外区幅	瓦当厚					
瓦1	文様不明	4.5以上	不明	2.6以上	2.0		10YR8/2 灰白色	土坑167		平安前	「左」「兵」銘軒瓦か
瓦2	文様不明	7.0以上	不明	4.8以上	2.2以上	2.5	10GY7/1 明緑灰色	7区 遺構検出		平安前	
瓦3	単弁11弁蓮華文	13.2以上	3.5	10.0以上	3.5	3.2	10YR8/2 灰白色	溝92		平安前	
瓦4	単弁11弁蓮華文	17.0	3.2	10.5	3.1	3.5	10YR8/2 灰白色	溝92		平安前	
瓦5	単弁11弁蓮華文	16.0	3.2	10.5	3.0	2.5	5GY8/1 灰白色	中世ピット		平安前	
瓦6	単弁11弁蓮華文	13.5以上	3.5	11.0	3.0	3.3	7.5YR7/2 灰白色	土坑160		平安前	
瓦7	単弁蓮華文	11.5以上		11.0以上	2.8	2.5	10GY7/1 明緑灰色	7区 遺構検出		平安前	
瓦8	重圏文	18.0?		5.0以上	2.3	2.5	2.5GY8/1 灰白色	土坑		平安前	
瓦9	蓮華文	7.0以上		5.5以上	2.0	3.0	10YR8/2 灰白色	土坑		平安前	長岡宮7194型式 「旨」銘軒瓦か
瓦10	複弁6弁蓮華文	17.0~		3.3以上	3.6	2.8	N7/ 灰白色	4区 掘下げ	栗栖野 瓦窯か	平安中	
瓦11	蓮華文	10.0~ 11.0			1.7		N6/ 灰色	土坑		平安~ 鎌倉	
瓦12	左巻き三巴文	11.5	—	6.5	2.5	2.2	7.5Y8/2 灰白色	堀90		平安~ 鎌倉	
瓦13	左巻き三巴文	10.5	—	6.7	1.7	1.3	5Y8/1 灰白色	堀86		平安~ 鎌倉	
瓦14	右巻き三巴文	15.5	—	9.5	3.0	3.0	2.5GY6/1 オリーブ灰色	井戸21	播磨	鎌倉~ 室町	
瓦15	左巻き三巴文	13.0	—	7.0	2.5	2.7	5G7/1 明緑灰色	池162 北部Sec		鎌倉~ 室町	
瓦16	右巻き三巴文	16.0	—	9.0	3.5	2.2	2.5GY7/1 明オリーブ色	井戸21		鎌倉~ 室町	
瓦17	左巻き三巴文	15.0	—	7.0以上	3.2	3.2	7.5GY7/1 明緑灰色	土坑298		鎌倉~ 室町	
瓦18	左巻き三巴文	11.5	—	6.8	2.4	2.0	7.5GY7/1 明緑灰色	土坑		鎌倉~ 室町	
瓦19	左巻き三巴文	14.5	—	6.5	4.0	2.0	10Y8/1 灰白色	土坑		江戸	
瓦20	右巻き三巴文	16.5	—	7.5	4.5	2.3	10G7/1 明緑灰色	土坑		江戸	
瓦21	右巻き三巴文	14.0	—	5.5	4.2	10.5	N8/ 灰白色	土坑298		江戸	

付表3 軒平瓦一覧表

番号	文様	計測値 単位(cm)					胎土の色調	出土地点	産地・窯	時代	備考
		横幅	高さ	内区幅	外区幅	瓦当厚					
瓦22	「大井寺」銘 均整唐草文	31.0	8.5	26.7	1.8	3.5	10YR8/1 灰白色	土坑98	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦23	「大井寺」銘 均整唐草文	29.9	7.5	25.5	1.7	2.2	10YR7/3 にぶい黄橙色	土坑98	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦24	「井寺」銘 均整唐草文	23.0 以上	7.2	19.4 以上		3.0	10YR5/1 褐灰色	土坑98	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦25	均整唐草文	8.0 以上	6.9	6.0 以上	2.0	2.2	2.5Y6/1 黄灰色	土坑98	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦26	均整唐草文	13.0 以上	7.9	10.2 以上	2.2	2.9	10YR7/1 灰白色	土坑98	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦27	均整唐草文	8.0 以上	7.1	6.0 以上	1.8	2.5	2.5Y7/1 灰白色	土坑98	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦28	「西」銘 均整唐草文	30.3	7.4	25.3	2.4	2.0	5Y8/2 灰白色	土坑98	大山崎 瓦窯	平安前	
瓦29	「大井寺」銘 均整唐草文	25.6 以上	6.8	22.0 以上	1.5	3.0	2.5Y8/2 灰白色	土坑77	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦30	「大井寺」銘 均整唐草文	2.8	6.1	25.0	1.5	1.3	7.5YR6/1 褐灰色	土坑77	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦31	均整唐草文	10.0 以上	6.5	8.0 以上	1.7	2.1	2.5Y8/2 灰白色	土坑77	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦32	均整唐草文	9.5 以上	6.4	6.6 以上	1.7	3.1	10YR6/1 褐灰色	土坑77	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦33	「旨」銘 均整唐草文	14.5 以上	4.0 以上	12.0 以上		2.0	10YR8/2 灰白色	溝92		平安前	長岡宮7722A 型式
瓦34	「松」銘 均整唐草文	6.5 以上		6.8 以上			7.5YR8/2 灰白色	2区 遺構検出		平安前	
瓦35	均整唐草文	8.0 以上		7.5 以上			7.5YR8/2 灰白色	土坑		平安前	
瓦36	均整唐草文	11.0 以上	5.5	9.5 以上	1.5	—	5GY8/1 灰白色	土坑		平安前	
瓦37	均整唐草文	7.3 以上	5.5	5.2 以上	1.5	—	7.5YR7/2 明褐色	土坑		平安前	
瓦38	唐草文	10.3 以上	5.0 以上	10.2 以上			N6/ 灰色	土坑	讃岐	平安前	
瓦39	均整唐草文	17.0 以上	6.5	13.0 以上	1.8	1.8	2.5GY8/1 灰白色	土坑	西賀茂 瓦窯	平安前	NS202A型式
瓦40	「西」銘 均整唐草文	16.0 以上	7.5	13.5 以上	2.5	2.5	7.5Y7/2 明褐色	土坑	大山崎 瓦窯	平安前	
瓦41	均整唐草文	16.0 以上	7.3	11.0 以上	2.3	2.5	5BG7/1 明青灰色	溝92	大山崎 瓦窯	平安前	
瓦42	均整唐草文	18.5 以上	7.0	13.0 以上	2.3	1.5	7.5GY8/1 明緑灰色	7区 遺構検出		平安前	
瓦43	均整唐草文	4.2 以上	6.0?	2.0 以上	1.3	2.0	7.5YR7/1 明褐灰色	柱穴48	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦44	「大井寺」銘 均整唐草文	20.0 以上	6.8	18.0 以上	1.7	3.2	7.5YR7/1 明褐灰色	土坑160	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦45	均整唐草文	9.0 以上	6.0	7.2 以上	1.4	2.5	7.5Y8/1 灰白色	溝92東半	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦46	均整唐草文	8.5 以上	7.5	6.2 以上	2.0	3.0	7.5YR7/1 明褐灰色	溝92	安井西裏 瓦窯か	平安前	
瓦47	唐草文	10.5 以上	6.5			1.5	10Y8/1 灰白色	溝350		平安前	長岡宮7731A 型式
瓦48	均整唐草文	8.0 以上	5.7	6.8 以上	1.6	1.0	10GY8/1 明緑灰色	土坑		平安前	長岡宮7722A 型式
瓦49	均整唐草文	9.0 以上	6.5	7.0 以上	2.0	2.5	7.5YR8/1 灰白色	土坑290	山城	平安中	

番号	文様	計測値 単位(cm)					胎土の色調	出土地点	産地・窯	時代	備考
		横幅	高さ	内区幅	外区幅	瓦当厚					
瓦50	唐草文	12.6以上	5.0	10.7以上	1.4	4.0	N7/灰白色	土坑		室町	
瓦51	均整唐草文	11.5以上	5.0	9.8以上	1.5	3.1	10G7/1明緑灰色	堀117下層		室町	
瓦52	唐草文	12.0以上	10.0			3.0	N7/灰白色	土坑		室町	
瓦53	均整唐草文	10.7以上	3.0	9.6	1.0	1.5	5G5/1緑灰色	土坑		室町	
瓦54	均整唐草文	14.3以上	4.2	13.5以上	1.0	2.8	5G7/1明緑灰色	池162		室町	
瓦55	均整唐草文	1.5以上	4.4			1.5	7.5Y8/2灰白色	堀86		室町	
瓦56	反転外行唐草文	9.3以上	4.5	7.5以上	1.7	2.0	7.5YR6/1褐灰色	7区遺構検出		室町	
瓦57	円形文	6.5以上	5.3	5.5以上	1.0	3.5	N8/灰白色	土坑		室町	
瓦58	円形文	7.5以上	6.1	—		1.7以上	5G4/1暗緑灰色	土坑		室町	
瓦59	唐草文	11.5以上	7.0	10.2以上	1.3	1.8	N7/灰白色	土坑298		江戸	
瓦60	唐草文	8.5以上	5.3	7.0以上	2.0	1.3	5G7/1明緑灰色	堀117		江戸	
瓦61	雲形唐草文	23.8	4.4	14.2	左4.1 右5.5	1.7	N8/灰白色	土坑		江戸	
瓦62	雲形唐草文	15.5	4.8	10.0以上	5.5	1.7	10G7/1明緑灰色	土坑		江戸	
瓦63	雲形唐草文	8.5以上	4.3			1.6	5G7/1明緑灰色	1区第1面清掃		江戸	
瓦64	雲形唐草文	10.6以上	4.5	3.8以上	4.6以上	1.5	10GY8/1明緑灰色	土坑		江戸	
瓦65	雲形唐草文	11.6以上	4.2	7.3以上	4.3	1.6	7.5GY8/1明緑灰色	土坑		江戸	

付表4 丸瓦・塼・鬼瓦一覧表

番号	種類	長さ	幅(厚さ)	高さ	胎土の色調	遺構名	時代	備考
瓦66	丸瓦	35.4	15.7	8.1	2.5GY8/1 灰白色	土坑98	平安前	
瓦67	丸瓦	38.3	17.0	8.5	N8/ 灰白色	土坑98	平安前	
瓦68	塼	21.1以上	5.8~6.1		N4/ 灰色	土坑98	平安前	
瓦69	塼	16.9以上	5.6~6.2		5GY8/1 灰白色	土坑98	平安前	
瓦70	塼	18.6以上	6.6		N4/ 灰色	土坑98	平安前	
瓦71	鬼瓦				10YR7/2 にぶい黄橙色	堀117	室町	

付表5 石製品一覧表

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径	材質	備考
石1	石製品	石鍋	土坑118			13.5	滑石	底部煤付着
石2	石製品	硯	土坑296	8.7以上	5.4	2.3	輝緑凝灰岩(赤色頁岩)	山口県「赤間石」
石3	石製品	硯	石敷315	10.6以上	7.1	1.2以上	頁岩	

版 圖



1 1区全景（西から）



2 2区全景（北東から）



1 3区全景（東から）



2 4区全景（北西から）



1 5区全景（南西から）



2 6区全景（東から）



3 7区全景（南西から）



1 1区土坑98 (北から)



2 1区土坑77 (南東から)



3 2区土坑160遺物出土状況 (西から)



4 2区堀119・溝92 (東から)



1 1区堀86 (西から)



2 1区堀90 (東から)



3 1区堀90・117 (南から)



4 2区堀90・塀1 (北から)



1 1区柱穴48・129（北西から）



2 1区井戸21（南東から）



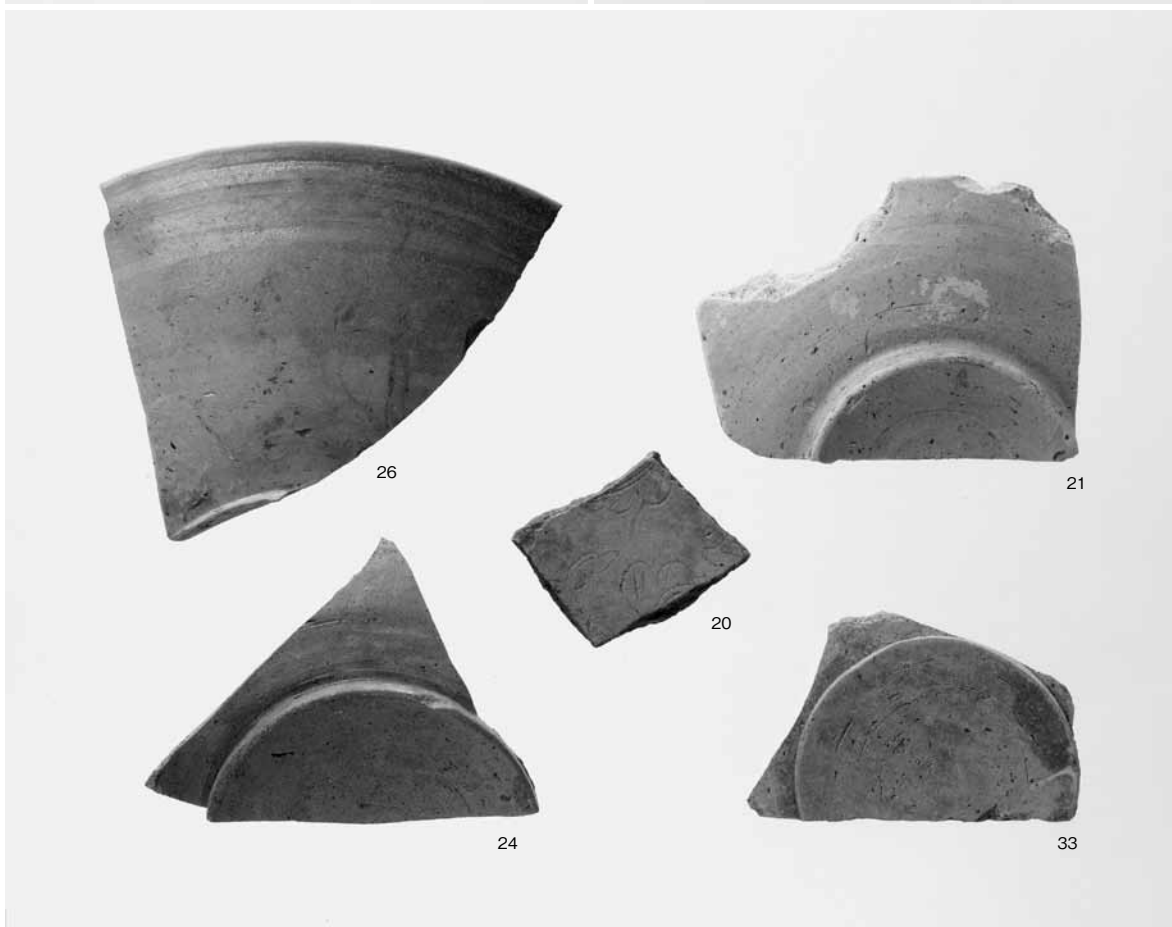
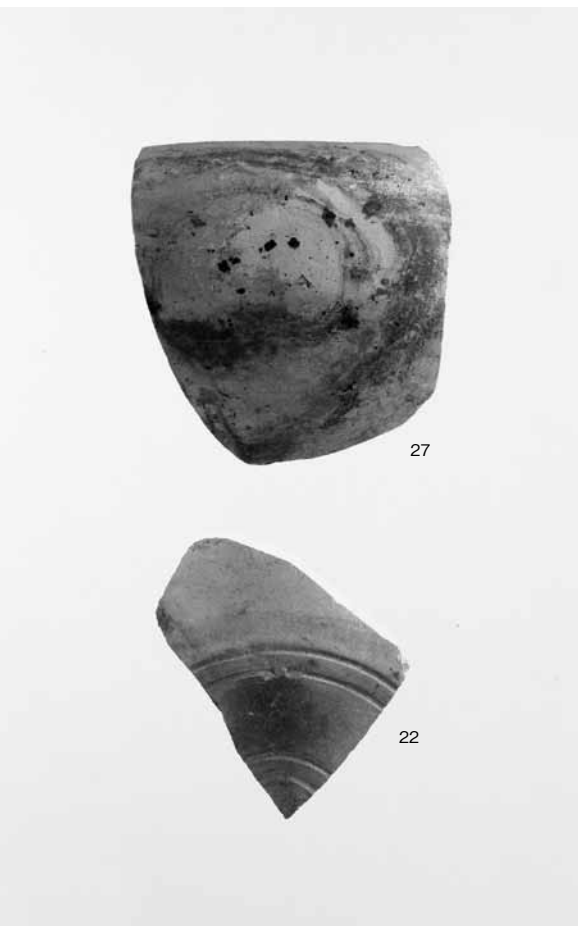
3 1区石列80・集石85（北から）



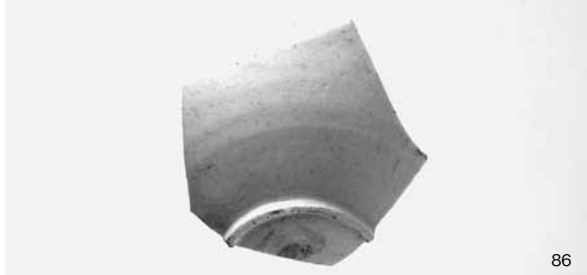
1 2区池162下層（北から）



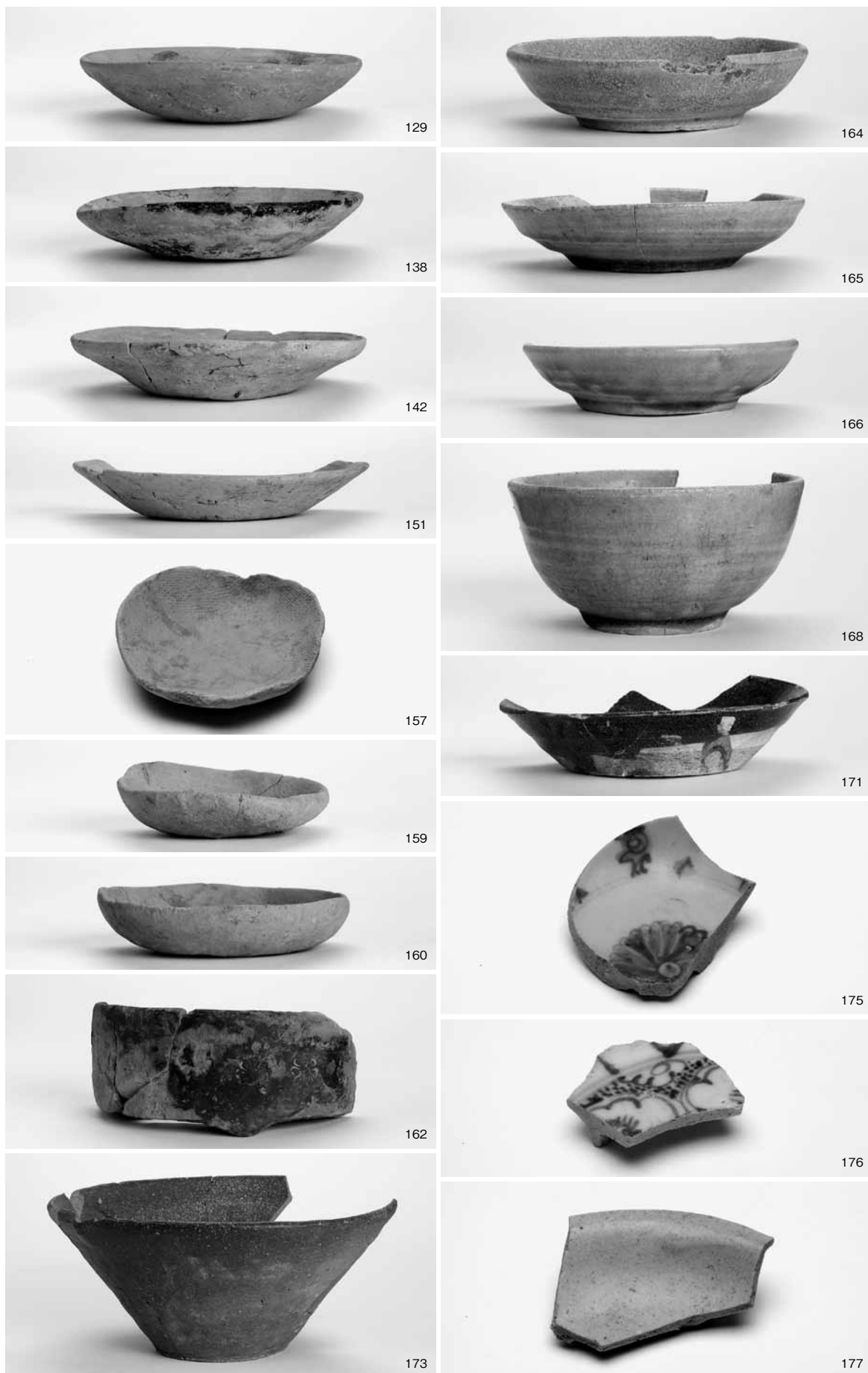
2 2区池162（北から）



平安時代の土器



堀90出土土器



井戸21出土土器



堀404・土坑298出土土器



瓦1



瓦3



瓦4



瓦5



瓦6



瓦7



瓦9



瓦10



瓦12



瓦13



瓦14



瓦15



瓦16



瓦17



瓦18



瓦19



瓦22



瓦23



瓦30



瓦28

軒平瓦1



瓦33



瓦39



瓦36



瓦34



瓦42



瓦49



瓦50



瓦52



瓦53



瓦54



瓦56



瓦59



瓦66



瓦67



瓦68



瓦69



瓦70



瓦71



石2



石3

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせき・めいしょう あらしやま							
書名	史跡・名勝 嵐山							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2012-3							
編著者名	小松武彦							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2012年8月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせき・めいしょう 史跡・名勝 あらしやま 嵐山	京都市右京区 嵯峨天龍寺 芒ノ馬場町 17、25-2、32-2	26100	A809	35度 01分 00秒	135度 40分 36秒	2011年9月 5日～2012 年1月20日 2012年5月 30日～2012 年6月13日	845㎡	建物新築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
史跡・名勝 嵐山	史跡・ 名勝	平安時代	土坑、溝	土師器、須恵器、緑釉 陶器、軒瓦、瓦、埴		東西溝を検出した。 「大井寺」銘軒瓦な ど多量の瓦が出土 した。		
		鎌倉時代 ～室町時代	堀、土坑、ピット、 土取穴、大型柱穴	土師器、国産陶磁器、 焼締陶器、輸入陶磁器、 瓦器、石製品、軒瓦、 瓦、埴		応仁の乱前後の堀 と大型柱穴を検出 した。		
		桃山時代	堀、井戸	土師器、国産陶磁器、 焼締陶器、輸入陶磁器、 瓦器				
		江戸時代	池、集石、土坑、 ピット	土師器、国産陶磁器、 輸入陶磁、焼締陶器、 軒瓦、瓦、硯		前期から中期の池 を検出した。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-3

史跡・名勝 嵐山

発行日 2012年8月31日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961